CyberLink

StreamAuthor3 詳説

2005/05/01
第 2 版第1稿

本書の更新履歴

- 2004/12/01　第1版第1稿
- 2004/12/09　第1版第2稿　　ウォーターマーク･BGM についての記載を追加
- 2005/05/01　第 2 版第 1 稿　　05-0311 ビルドにあわせて修正

本書の更新履歴 1

はじめに 7

『StreamAuthor』 について 7
本書の位置づけ 7
本書の表記について 7
最新情報/ 仕様一覧 などに関して 8
Readme を表示する 8
スタートメニューから Readme を表示する (インストール後) 8
StreamAuthor の動作環境 9
コンテンツ製作用 PC の動作環境 9
コンテンツ再生環境 (Windows/IE) 10
コンテンツ再生環境 (Windows/Netscape) 10
コンテンツ再生環境 (Mac OS/Safari) 11
配信サーバ – HTTP(Web) 11
配信サーバ – ストリーミングサーバ (任意) 11
サポートファイル形式 11
メディア (動画・音声) 素材として 11
スライドとして 12
コンテンツのファイル形式 12
フルスクリーンモードでのスライドの使用制限の解除について 12
HTML ファイル中の画像・プラグインについて 12

StreamAuthor3 の概要 13

作業の流れ 13

収録 ― フルスクリーンモード 14

フルスクリーンモードの起動 14
Stream Author の起動 14
フルスクリーンモードの選択 14
プレゼンテーションフォーマットの選択 15
テンプレートの選択 15
キャプチャデバイス・スライドファイルの選択 16
フルスクリーンモードの準備画面 17
収録を開始するには？ 17
収録開始のスライドを1枚目以外にするには？ 17
スライドの順番を入れ替えるには？ 17
スライドを追加するには？ 18
プロファイル (動画の品質) を変更するには？ 18
キャプチャデバイスやその設定を変更するには？ 19
マイクの録音ボリュームを変更するには？ 19
カメラからの映像を静止画で撮るには？ 19
音声のみで収録する場合で、代替の映像 (写真) を設定するには？ 19
プレゼンテーションの開始と同時に収録を開始するのは？ 19
フルスクリーンモード – 収録作業 (プレゼンテーション・講義の記録) 21
フルスクリーンモード ― 収録中の画面の説明 21
収録の開始 21
フルスクリーンモードの収録方法 ― スライドの切り替え 22
途中でプレゼンテーションの収録を一時停止するには？ (ポーズ機能) 22
スライドに書き込みを加えるには？ (ペン機能) 22
ポインタのように指示をするには？ (マウスの軌跡の記録) 23
ホワイトボードのように使うには？ (ブランクスライド) 23
他ソフトウェアの操作手順やデモを記録する (画面録画) 23
スライドではなくカメラの映像や書画カメラを利用したい (カメラ映像の表示) 23

スライドの一覧を見たい（サムネイル表示）.....24
ボタンなどを非表示にして、スライドのみ表示するには？.....25
収録を終了するには？.....25
収録の再開（再録画）.....25

同期 － タイムラインモード..... 27

タイムラインモードの起動.....27
Stream Author の起動.....27
フルスクリーンモードの選択.....27
プレゼンテーションフォーマットの選択.....27
テンプレートの選択.....28
キャプチャデバイス・スライドファイル・動画ファイルの選択.....28
タイムラインモードの画面.....30
ライブラリの説明.....30
動画/音声タブ.....30
スライドタブ.....30
トランジションタブ.....30
タイムラインの説明.....31
動画をタイムラインに配置するには？.....31
① タイムラインカーソル位置に挿入.....31
② ドラッグアンドドロップで挿入.....31
スライドと動画を同期させるには？.....31
① 同期ボタンで挿入.....31
② タイムラインカーソル位置に挿入.....32
③ ドラッグアンドドロップで挿入.....32
動画を録画しながら同期するには？.....32
動画とスライドの同期のタイミングを変更するには？.....32
切り替わりのタイミングだけ変更する.....32
移動.....32
スライドの削除.....33
素材の移動時に他の素材の移動（追随）を禁止する.....33
アニメーション効果の編集.....34
アニメーション効果の挿入.....34
アニメーションの開始位置の修正.....34
アニメーション効果の削除.....35
動画を編集するには？.....35
動画の前後の不要な部分をカットする.....35
動画を分割する.....35
カット・分割位置の変更.....36
動画の結合について.....36
トランジション効果 － 動画と動画の間の特殊効果を設定するには？.....36
音量を調整するには？.....36
各動画・音声について調整する.....36
動画の特定の部分の音量を調整する.....36
動画をライブラリに追加するには？（すでに動画ファイルが存在する場合）.....37
動画をライブラリに追加するには？（動画ファイルを作成する場合）.....37
スライドをライブラリに追加するには？.....37
スライドを修正するには？.....37
素材の前後のタイムラインカーソルを簡単に移動する.....37
一時停止マーカを挿入する（コンテンツに一時停止を挿入する）.....38

キャプチャ － タイムラインモード..... 39

キャプチャ作業の画面.....39
DV カメラ(iLink/IEEE1394 経由)で録画するには？.....39

アナログキャプチャカードから録画するには？ 40
カメラを接続しても映像が表示されない場合 40
Web カメラ（USB カメラ）から録画するには？ 40
音声のみ録音するには？ 41
Audio-CD（音楽 CD）から音を取り込むには？ 41
画面録画をするには？ 41
プロファイルを変更するには？ 41

編集 42

編集作業の画面 42
目次の編集 42
目次はどのように自動作成されるか？ 43
目次を追加・削除するには？ 43
目次の文字列を変更するには？ 43
目次を階層化（インデント）するには？ 43
コンテンツ上の目次から、連番や時間を消すには？ 43
コンテンツ上の目次のフォントを変更するには？ 43
テンプレート 43
設定したテンプレートを別のものに置き換えるには？ 43
画面のデザイン（テンプレート）をコンテンツの途中で変更するには？ 43
自作のテンプレートを利用するためには？ 44
プロパティー　コンテンツ概要の変更・SCORM の設定 44
コンテンツの概要を変更するには？ 44
SCORM のメタデータを設定するには？ 44
参考資料ー　使用したファイルや見てほしいホームページを添付するには？ 44
テストー　小テストを作成するには？ 44
テスト機能の注意 44
テストの作成手順 44
テスト読み込み時の各設定の説明 46
テスト機能の注意 47
サブスライド　ー　スライドを 2 つにするには？ 47
ウォーターマーク　- 動画にロゴマークを挿入するには？ 47
BGM　- BGM を追加するには？ 48

保存 49

プロファイルの選択（動画の品質を変更するには？） 49
保存先の選択 50
保存形式の説明 50
保存先の説明 50
サブフォルダの指定 50
保存／再生 50

画面録画 51

画面録画の起動 51
フルスクリーンモードから 51
タイムラインモード（キャプチャ作業）から 51
画面録画ツールのみ起動 51
録画の準備・設定 51
準備を行うには？ 51
設定を行うには？ 51
録画の開始 52
ペン機能の利用 52

録画の停止 53
画面録画の制限 53

プロジェクト 54

プロジェクトとは？ 54
フルスクリーンモードを高速に開始するには？ 54
フルスクリーンモードで収録し、タイムラインモードで再編集するには？ 54
プロジェクトを紛失したコンテンツの再編集 55
注意事項 55
プロジェクトの保存を高速化するには？ 55

プロファイル 56

プロファイルとは？（必読） 56
適切なプロファイルを選択するには？ 56
マルチビットレート 56
新しいプロファイルを作成するには？ 57
プロファイルの各パラメータ（値）の解説 58
Windows Media / 画面録画用 WMV （Video） 58
Windows Media / 画面録画用 WMV （Audio） 59
MPEG (Video) 60
MPEG (Audio) 60
ビットレート設定時の注意事項 60

保存先の設定 62

保存方法 62
保存形式 62
保存先 62
保存プロトコル 62
保存先設定の流れ図 64
各パラメータの詳細 64
保存形式 64
保存先 65
コンテンツをローカルドライブに保存する 65
Web サーバの選択 66
Web サーバ URL の設定 66
Windows Media サーバの選択 67
Windows Media サーバ URL の設定 67
CTMS サーバの選択 68
有効期限の設定 68
パスワードの設定 69
保存先名の設定 69
SCORM コンテンツとして保存するには？ 69
展開フォルダ形式で保存したコンテンツをサーバにアップロードするには？ 70
Web サーバだけで配信する場合の制限事項 70

キャプチャデバイスの設定 71

キャプチャデバイスツールの起動 71
フルスクリーンモード準備画面から 71
フルスクリーンモード収録画面から 71
タイムラインモード同期作業から 71
タイムラインモードキャプチャ作業から 71

映像の調整 71
キャプチャデバイスの選択 72
映像入力ソースの選択 72
映像の調整 72
音声の調整 73
音声デバイスの選択 73
音声入力ソースの選択 73
音声の調整 73
アナログキャプチャカードを使用する場合、音声が出ない 73
Canopus MTV シリーズや VAIO など録画可能なパソコンを使用している場合 . 73
VfW(Video for Windows)ドライバの機器について 73

各種設定 74

作業領域を変更するには？ 74
プロジェクトファイルの保存を高速化するには？ 74
コンテンツの概要を自動的に指定するには？ 74
コンテンツが最後まで達した時の動作 75
コンテンツが最後まで達したときに、特定の Web サイトに移動する 75
コンテンツが最後まで達したときに、特定の HTML ファイルに移動する 75
まだ見ていないスライドの視聴の禁止 75
タイムラインに関する設定を変更するには？ 75
映像トラックに静止画を挿入した場合の表示時間 75
スライドを挿入した表示時間 76
PowerPoint のアニメーションの動作間隔 76
トランジション効果の継続時間 76
テンプレートのデフォルト表示時間 76
目次の自動設定を禁止するには？ 76

トラブルシューティング・よくある質問とその答え 77

コンテンツ 77
出来上がったコンテンツのファイルサイズはどれくらいになりますか？ 77
出来上がったコンテンツで、スライドが切り替わるときのクリック音を消すには？ 77
フルスクリーン 77
スライドを使わずに、ブランクスライドとペン機能だけで収録できますか？ 77
続けて収録をする場合にすばやく起動する方法 77
「カメラからの録画」を使用する際に、投影される映像を大きくしたい 78
画面録画 78
画面録画で、再生している動画を録画できますか？ 78

サポートなど 79

サポートについて 79
Web サポート 79
メールでのサポート 79
電話・FAX でのサポート 79
多言語サポートについて 79
コンテンツのカスタマイズについて 80
StreamAuthor 3 について 80
StreamAuthor 3 評価版・体験版 について 80
アプリケーションの改竄について 80
アップデータの提供について 80

はじめに

『StreamAuthor』 について

このたびは StreamAuthor をご使用いただきまことにありがとうございます。
StreamAuthor は、プレゼンテーションや講義の様子の映像と PowerPoint などの資料の切り替わりを自動的に収録し、再現するための Web コンテンツを作成するためのソフトウェアです。e-Learning コンテンツとしてはもちろん、各種製品案内や電子マニュアル、社内文書など、様々なシーンで活用いただけます。

本書の位置づけ

本書では、StreamAuthor3 の特殊な使用方法や各種設定方法などの詳細な説明が記載されています。比較的パソコンやネットワーク環境の扱いに慣れた方が各機能の詳細について知る場合には本書をお読みください。本書は、PDF のみでの提供になります。印刷物での提供は行っておりませんので、必要に応じて印刷してご利用ください。また、本書は随時改定されていきます。最新版はインターネットの弊社 Web サイトよりダウンロードできます。

製品には、ほかに以下の2つのマニュアルが付属しています。

- はじめて StreamAuthor3 を触られる方で、StreamAuthor3 の必要最低限の使い方を知るためには、付属の簡単マニュアル（B5 版のカラー両面印刷の2枚組のシート）を参照してください。この簡単マニュアルは、PC の横に置いておくと便利です。
- 各機能の使い方を知るためには、冊子「ユーザーズガイド」を参照してください。プログラムメニュー中の「StreamAuthor ユーザーズガイド」はこの冊子と同じ内容の PDF ファイルになります

本書では PowerPoint 他、各種アプリケーションの使い方については説明しておりません。それらのソフトの使い方などは各製品付属のマニュアルか市販の説明書を参照してください。

本書はビデオカメラ・キャプチャ機器などの取り付け方法・設定方法については、記載されていません。それぞれの製品に付属している取扱説明書やマニュアルをご覧になり、正しく接続・設定した上で、StreamAuthor3 をご使用ください。

本書の表記について

- 特にことわり書きのない場合、Windows 2000、Windows XP などを［Windows］と表記します。

- 本書の表記は、とくにことわり書きのない場合、StreamAuthor 3.0 を総称して「StreamAuthor」と呼称します。
- 操作方法は、特に OS 表記がない場合、Windows XP の表現に合わせています。OS が異なる場合、使用している OS の表現に読み換えてください。
- StreamAuthor 上のユーザインターフェイスやダイアログボックスに表示されているアイコン名、ボタン名、タブ名、タグ名などは、[xxx] で表記しています。(例:[再生])キーボードのボタンは、< xxx >で表記しています。(例:< Delete >)
- アイコン、ボタン、フォルダなどにポインタをあわせ、マウスの左ボタンを押して離す操作を[クリック]、クリックを素早く 2 回行うことを[ダブルクリック]と表記しています。
- マウスの右ボタンを押して離す操作を[右クリック]と表記しています。
- アイコン、フォルダなどにポインタを合わせ、マウスのボタンを押したまま移動し、目的の位置で離す操作を、[ドラッグ]と表記しています。
- ダイアログボックスなどのラジオボタンにマウスを合わせてクリックし、選択された状態にすることを[選択する]と表記しています。
- ダイアログボックスなどのチェックボックス、オプションボタンにマウスを合わせてクリックし、チェックされた状態にすることを[チェックする]と表記しています。
- ダイアログボックスなどのラジオボタンにマウスを合わせてクリックし、選択されていない状態にすることを[解除する]と表記しています。
- ダイアログボックスなどのチェックボックス、オプションボタンにマウスを合わせてクリックし、チェックされていない状態にすることを[クリアする]と表記しています。
- 注意する点や、作業を円滑にするやり方、知っておくと便利なことなどは、[注意]、[Note]、[Information]を付けて記述しています。
- 本書で使用している画像は、効果を分かり易くするためのサンプル画像です。
- Microsoft、Windows は米国 Microsoft / Corporation の登録商標です。その他の記載されている各種名称、会社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。
- 'Copyright 1998-2004 CyberLink Corp. All rights reserved. CyberLink and StreamAuthor are trademarks of CyberLink Corp.'

最新情報/ 仕様一覧 などに関して

最新情報、プログラムの仕様一覧、インストール方法、カスタマーサポート項目などを記載しています。各詳細に関しては、Readme ファイルを参照してください。

Readme を表示する

1. CD-ROM、またはプログラムフォルダを参照します。
2. フォルダ内から「Readme」フォルダに移動します。
3. 「Readme」フォルダ内の Readme の HTML ファイルを開きます。

スタートメニューから Readme を表示する (インストール後)

1. Windows の[スタート]ボタンをクリックします。
2. スタートメニューのプログラムから[Readme]を選択します。

StreamAuthor の動作環境

コンテンツ製作用 PC の動作環境

対応 OS[1][2][3]	■ Windows2000Professional 日本語版 ■ Windows XP 日本語版 (Home Edition / Professional)
メインメモリ	■ 256MB 以上(512MB 以上を推奨)
CPU[4][5]	■ Intel Pentium III 1GHz (Intel Pentium 4 以上を推奨)
ハードディスク	■ 100MB (インストール時・Office などは含みません) ■ 別途、作業領域用の空き容量が必要
音声デバイス	■ サウンドカード、スピーカ
グラフィックカード	■ VRAM 8MB 以上のグラフィックカード(16MB 以上を推奨) ■ 解像度・表示色が大きい場合には、VRAM の容量によってはプロジェクタ・モニタの両方に画面を表示できない場合があります。
PowerPoint(Office)	■ PowerPoint97[6] 、Office 2000 / XP / 2003
キャプチャデバイス[7][8][9]	■ **DV カメラ**:OHCI 仕様[10]に準拠した IEEE1394 インターフェイスボードで接続された DV カメラ ■ **アナログキャプチャカード**:Microsoft WDM に準拠した PCI 接続のビデオキャプチャデバイス[11] ■ **Web カメラ**[12]: Microsoft WDM に準拠した USB 接続のビデオキャプチャデバイス
音声キャプチャデバイス	■ マイクロフォンなど (DV カメラ内蔵のマイクも使用可能)
テストの作成	■ Microsoft Word 2000 / 2002 / 2003
その他	■ Windows Media Player 9 以上 ■ Microsoft DirectX 9 以上 ■ PDF ファイルを使用する場合、Adobe Acrobat Reader (PDF ファイルの作成には別途 Adobe Acrobat などが必要です) ■ SWF ファイルを使用する場合、Macromedia Shockwave Flash プラグイン(SWF ファイルの作成には別途 Macromedia Flash などが必要です) ■ PowerPoint などに特殊なオブジェクトが含まれている場合は、それを利用するために必要なソフトウェアが別途必要になる場合があります。

[1] Windows2000 / XP 環境にインストールするには、管理者権限でログオンする必要があります。
[2] アプリケーションは英語版・中国語 (繁字体・簡字体) のインストールも可能ですが、サポートの対象外になります。
[3] Windows 95/98/98SE/Me では正常動作しません。
[4] Intel Pentium III 500MHz 程度でも動作しますが、処理に時間がかかったり高ビットレートの動画の処理時にコマ落ちしたりするなどの弊害が発生する場合があります。また、推奨環境でも、他常駐ソフトなどの影響により、十分なパフォーマンスを保証できない場合があります。
[5] サーバ系 CPU、Dual CPU 環境はサポート対象外になります。
[6] Office97(Word/Excel)は使用できません。また PowerPoint97 を使用する場合には、制限があります。
[7] 使用する OS でのメーカ保証のある製品をご使用ください。
[8] 音声のみ収録する場合は、キャプチャデバイスは必要ありません。
[9] VfW ドライバには対応していません。
[10] Open Host Controller Interface の略で、特定 (メーカー) のコントローラチップに依存しない汎用のドライバでデータ通信するための標準規格です。2000Pro/XP (Home Edition / Professional) には OHCI 準拠の IEEE1394 ドライバが標準搭載されています。
[11] ハードウェアエンコーダボード(Canopus MTV シリーズや SONY VAIO 付属のキャプチャカードなど)では正常動作しません。
[12] USB カメラ・CCD カメラなどとも呼称されます。

コンテンツ再生環境 (Windows/IE)

- Intel Pentium III 500MHz 以上もしくは Cerelon700MHz 以上
  (周波数がこれ以下でも再生可能ですが、スライドの表示が大幅に遅れたり、動画のビットレートによっては動画の再生ができなかったり場合があります)
- Windows 98SE/Me/2000/XP
- Windows Media Player 7.1 以上
- Internet Explorer 5.5 以上
- 音声の再生のためのサウンドカードおよびスピーカやヘッドフォンなど
- ネットワーク経由で再生する場合はネットワークカード
  (ネットワークに関する設定が適切になされている必要があります)
- CD-ROM などで配布されたコンテンツを再生する場合は、CD-ROM ドライブなど
- Office のインストールされていないパソコンの場合は、PowerPoint 2003 アドイン: Office アニメーションランタイムが必要になる場合があります。このアドインプログラムは Microsoft 社の Web サイトからダウンロードすることができます。
- テスト結果をメールで送信する場合は、メールに関する設定が完了した Microsoft Outlook/Outlook Express が必要
- PowerPoint スライドと完全に同一の表現を保証するわけではありません。

- UNIX 系 OS 上での再生はサポートしておりません。

コンテンツ再生環境 (Windows/Netscape)

- Intel Pentium III 500MHz 以上もしくは Cerelon700MHz 以上
  (周波数がこれ以下でも再生可能ですが、スライドの表示が大幅に遅れたり、動画のビットレートによっては動画の再生ができなかったりする場合があります)
- Windows 98SE/Me/2000/XP
- Windows Media Player 7.1 以上
- Netscape Communicator 4.78[13]
- 音声の再生のためのサウンドカードおよびスピーカやヘッドフォンなど
- ネットワーク経由で再生する場合はネットワークカード
  (ネットワークに関する設定が適切になされている必要があります)
- CD-ROM などで配布されたコンテンツを再生する場合は、CD-ROM ドライブなど

- Macintosh, UNIX などの Windows 以外での OS 上での再生はサポートしておりません。

- Windows 版 Internet Explorer 上での表現を完全にサポートするものではありません。
- 複数動画で構成されている場合には、目次をクリックすることによるジャンプ (コンテンツの移動) には対応しておりません。
- コンテンツの途中でのテンプレートの変更には対応しておりません。視聴者によるスライドと動画の入れ替え・スライドのみの表示・動画のみの表示には対応しておりません。
- スライドが画像になります。(PowerPoint アニメーションは再現されません)
- テスト機能は利用できません。
- 目次のインデント表示の表現が異なります。
- サブスライドが利用できません。
- SCORM による LMS との同期については、検証を行っておりません。(各 LMS ベンダー様に Netscape での動作をご確認ください。)

[13] Netscape Communicator 4.78 のみ対応。Netscape 6/7 では再生できません。また 4.78 より前のバージョンでは再生の保証いたしません。

コンテンツ再生環境 (Mac OS/Safari)

- Mac OS 10.3 (それ以外でのバージョンでの再生はサポートしておりません)
- Safari 1.2 以上
- Windows Media Player 9 for Mac OS X

- Macintosh 版 Internet Explorer / Netscape での再生はサポートしておりません。

- Windows 版 Internet Explorer 上での表現を完全にサポートするものではありません。
- 目次をクリックすることによるジャンプ (コンテンツの移動) には対応しておりません。
- コンテンツの途中でのテンプレートの変更には対応しておりません。視聴者によるスライドと動画の入れ替え・スライドのみの表示・動画のみの表示には対応しておりません。
- スライドが画像になります。(PowerPoint アニメーションは再現されません)
- テスト機能は利用できません。
- コンテンツ中のポーズ (一時停止) 機能は利用できません。
- 目次のインデント表示の表現が異なります。
- サブスライドが利用できません。
- SCORM による LMS との同期については、検証を行っておりません。(各 LMS ベンダー様に Mac OS および Safari での動作をご確認ください。)

- 本機能は、できあがったコンテンツを Mac OS 上で再生する機能であり、Mac OS 上でコンテンツの作成をする機能ではありません。

配信サーバ – HTTP(Web)

- IIS (Internet Information Server)
  (Windows 2003 サーバ・Windows 2000 サーバなどに付属)
- Apache

Web サーバから動画を配信する場合は以下の制限があります。これらの制限を解除するためには動画の配信にストリーミングサーバを用意します。

- 動画のダウンロードが完了するまで、目次のクリックなどによるコンテンツの移動ができません。
- MBR の動画の配信に対応できません。

配信サーバ – ストリーミングサーバ (任意)

- WMS (Windows Media Service)
  (Windows 2003 サーバ・Windows 2000 サーバなどに付属)
- Real Helix サーバ (Windows Media の配信のみ)

- MMS (Microsoft Media Streaming)および WMS の HTTP ストリーミングのみサポートしています。RTSP は対応しておりません。
- WMS/Helix サーバの動作環境については、各メーカ様にご確認ください。
- WMS/Helix サーバの設定方法などについては本書では説明しておりません。

サポートファイル形式

メディア (動画・音声) 素材として

種類		注意事項
動画	WMV	
	MPEG-1/2	

	AVI	適切な Codec をインストールしておく必要があり
音声	WMA	
	MP3	
	WAV	
	AU	
静止画	JPEG	
	GIF	
	PNG	

スライドとして

種類	注意事項	フルスクリーン	ペン機能
PPT(PowerPoint)	PowerPoint97/2000/2002/2003 のいずれかが必須 PowerPoint97 の場合は制限事項あり	使用可能	使用可能
XLS(Excel)	Excel2000/2002/2003 のいずれかが必須	使用可能	使用可能
DOC(Word)	Word 2000/2002./2003 のいずれかが必須	使用可能	使用可能
静止画	BMP,JPEG,GIF,PNG	使用可能	使用可能
HTML		~~使用不可~~	使用不可
URL		使用可能	使用不可
SWF(Flash)	Macromedia Flush Plug-in が必要 SWF ファイルの作成には、Macromedia Flush が別途必要	~~使用不可~~	使用不可
PDF(Acrobat)	Adobe Acrobat Reader が必要 PDF ファイルの作成には、Adobe Acrobat が別途必要	~~使用不可~~	使用不可
Text		~~使用不可~~	使用不可

コンテンツのファイル形式

出来上がったコンテンツの映像部分は、すべて WMV/WMA 形式に変換されます。Real Video / QuickTime 形式などでの保存はできません。
それ以外のスライド部分は HTML（およびそれを構成する静止画などのファイル）に変換されます。

フルスクリーンモードでのスライドの使用制限の解除について

ビルド(05)-0311 (1511) より、フルスクリーンモードでも、HTML / SWF(Flash) / PDF(Acrobat) / Text の各ファイルも利用できるようになりました。（ペン機能の使用制限はそのままです。）

HTML ファイル中の画像･プラグインについて

HTML 中の画像･プラグインなどは HTML を読み込んだ場合時に同時に読み込むことができません。これらの場合は、以下のいずれかの方法で対処します。

- 画像･プラグインなどをインターネット上のサーバに配置し、フル URL でリンクを張る。（この場合、ネットワークの無い環境では表示されないことになります。）
- 画像･プラグインを含んだ形で、ZIP 形式に圧縮し、ZIP 形式で読み込む。

StreamAuthor3 の概要

作業の流れ

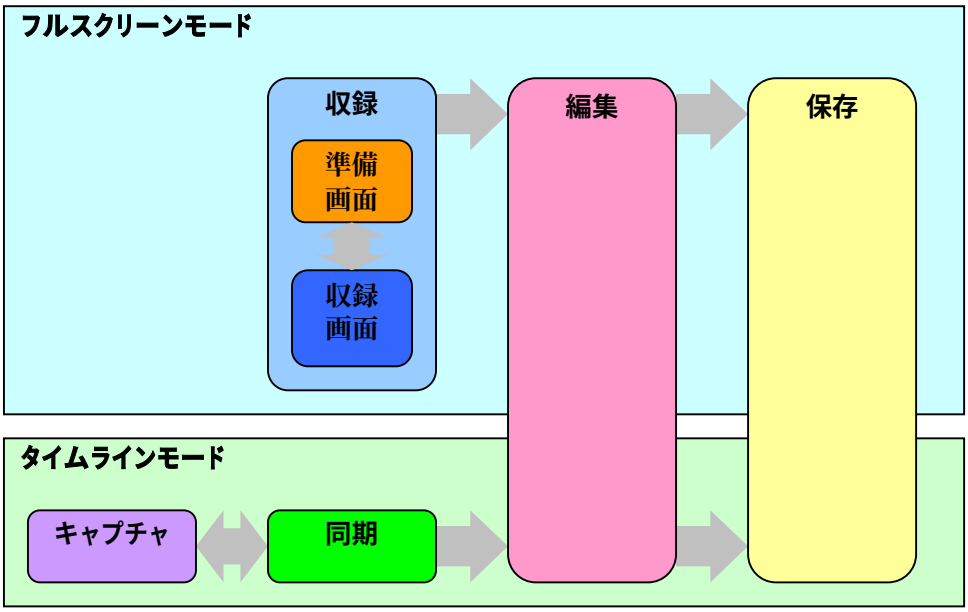
StreamAuthor3 の作業は、大きく分けて2つのモードがあります。作業の場面に合わせてモードを選択してください。

【フルスクリーンモード】

スライドをプロジェクタなどに全画面表示し、プレゼンテーションを行い、そのプレゼンテーションをリアルタイムに記録します

【タイムラインモード】

素材をタイムライン上に配置し、コンテンツを作成していきます。



それぞれの編集作業･保存作業は同一の作業内容になりますので、本書では別に編集･保存について記載しています。

収録 ― フルスクリーンモード

フルスクリーンモードの起動

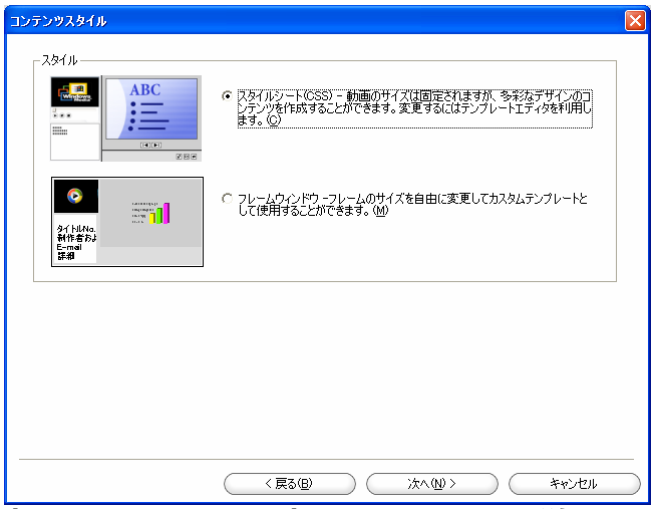
Stream Author の起動

スタートメニューから StreamAuthor3 を選択するか、デスクトップ上の StreamAuthor3 アイコンをダブルクリックします。

フルスクリーンモードの選択

フルスクリーンモードを選択します。

プレゼンテーションフォーマットの選択



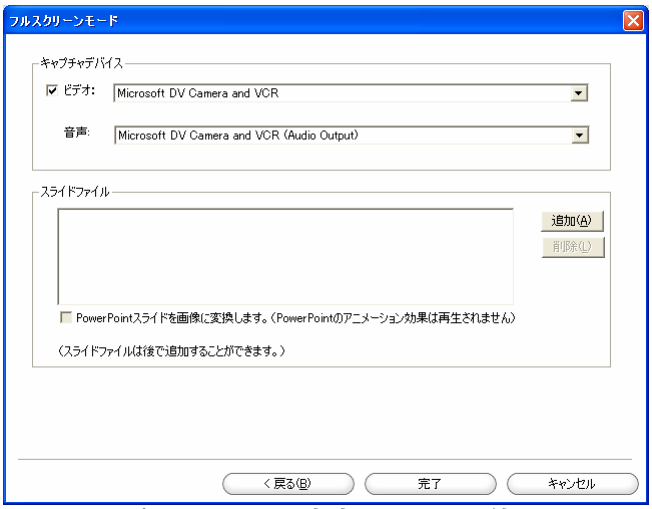
「スタイルシート(CSS)」か「フレームウィンドウ」を選択します。プレゼンテーションフォーマットは、作業中やコンテンツ中で変更することはできません。
スタイルシート(CSS)は、テンプレートエディタ[14]を用いて自作のデザインを作成し利用することができます。
フレームウィンドウは、視聴者によって動画とスライドの大きさの比率を自由に変更させることができますが、自作のデザインを作成することはできません。

テンプレートの選択

実際に使用するテンプレートデザインを選択します。テンプレートデザインは作業開始後に変更することができます。自作のデザインを利用する場合には、作業開始後にテンプレートデザインを入れ替える必要がありますので、その場合には適当なテンプレートを仮に選択します。

[14] 体験版・評価版では使用できません。

キャプチャデバイス・スライドファイルの選択



ビデオキャプチャデバイス・音声デバイスと、使用するスライドを選択します。
ビデオキャプチャデバイスが接続されていない場合には、ビデオキャプチャボードを選択することはできません。ビデオキャプチャデバイスが接続されているのに使用しない場合[15]には、ビデオ選択肢横のチェックボックスを外します。
キャプチャデバイスは、作業開始後に変更することができます。
[追加]ボタンをクリックして、利用するスライドをすべて選択します。ただし、URL（ホームページ）を直接指定する場合のみ、ここでは指定することができません。準備画面で追加してください。スライドファイルはここで選択しなくても、後で追加することができます。
[スライドを画像形式で読み込む]にチェックを入れると、PowerPoint スライドは HTML 形式ではなく、JPEG 形式で読み込まれます。PowerPoint スライドの HTML 変換に失敗する場合[16]にここにチェックを入れることによって解決する場合があります。ただし、この機能を利用した場合には、PowerPoint スライドのアニメーション効果は再生されなくなります。また、本機能は PowerPoint スライドのみに有効で、その他の形式は HTML に変換されます。

[15] その場合、音声のみ収録されます。
[16] トラブルシューティング・TIPS 集を参照のこと

フルスクリーンモードの準備画面

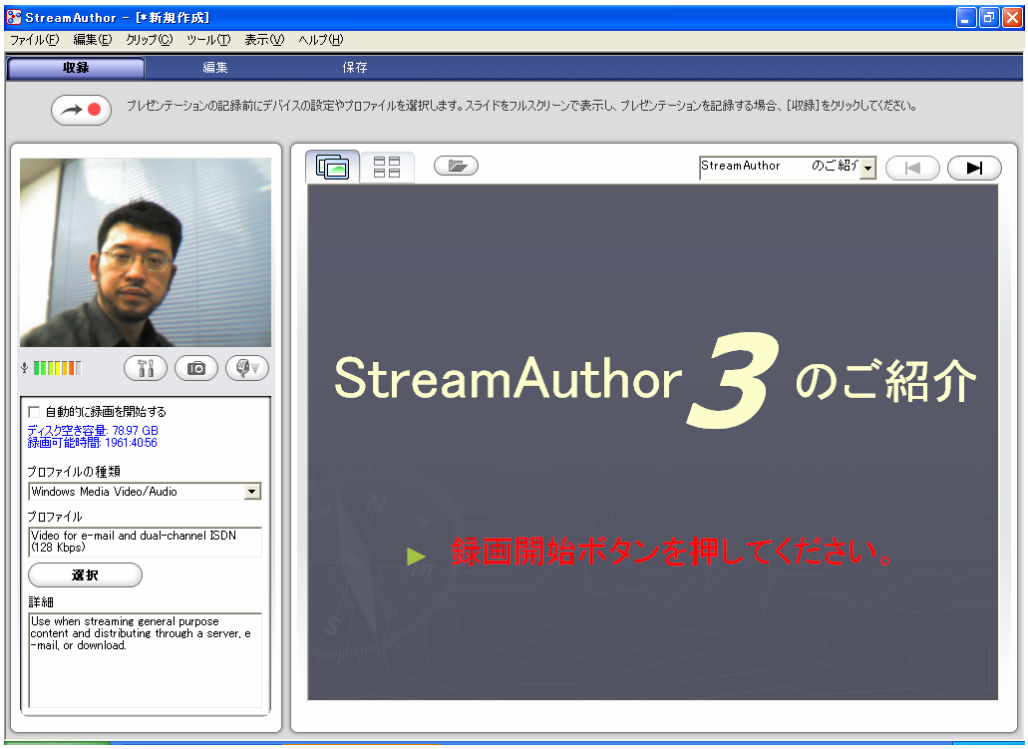


図 1 フルスクリーンモードの準備画面

収録を開始するには？

図 2 収録ボタン

1. 準備画面の[収録]ボタンをクリックします。準備画面で表示されているスライドがフルスクリーン表示されます。
2. フルスクリーン表示がされた段階では、録画は一時停止状態になっています。録画を開始するように促すダイアログが表示されます[17]。
3. [録画]ボタンを押して録画を開始します。

収録開始のスライドを1枚目以外にするには？

- 準備画面でスライドが1枚だけ表示されている場合には、スライドの選択ボタンを押すかスライド一覧よりスライドを選択し、開始するスライドを選択します。
- 準備画面がサムネイル表示されている場合には、開始するスライドを選択します。
- この状態で[フルスクリーン表示]ボタンをクリックします。

スライドの順番を入れ替えるには？

複数のスライドを用いて収録を行う場合、PPT スライドの間に Excel の表を挿入するなど順番をあらかじめ指定しておく必要があります。
準備画面で[サムネイル表示]を選択し、移動するスライドを移動先のスライドの間にドラッグして移動することによって、順番を入れ替えることができます。

図 3 サムネイルボタン

[17] 「このダイアログを今後表示しない」を選択すると、このダイアログは今後表示されなくなりますので注意してください。

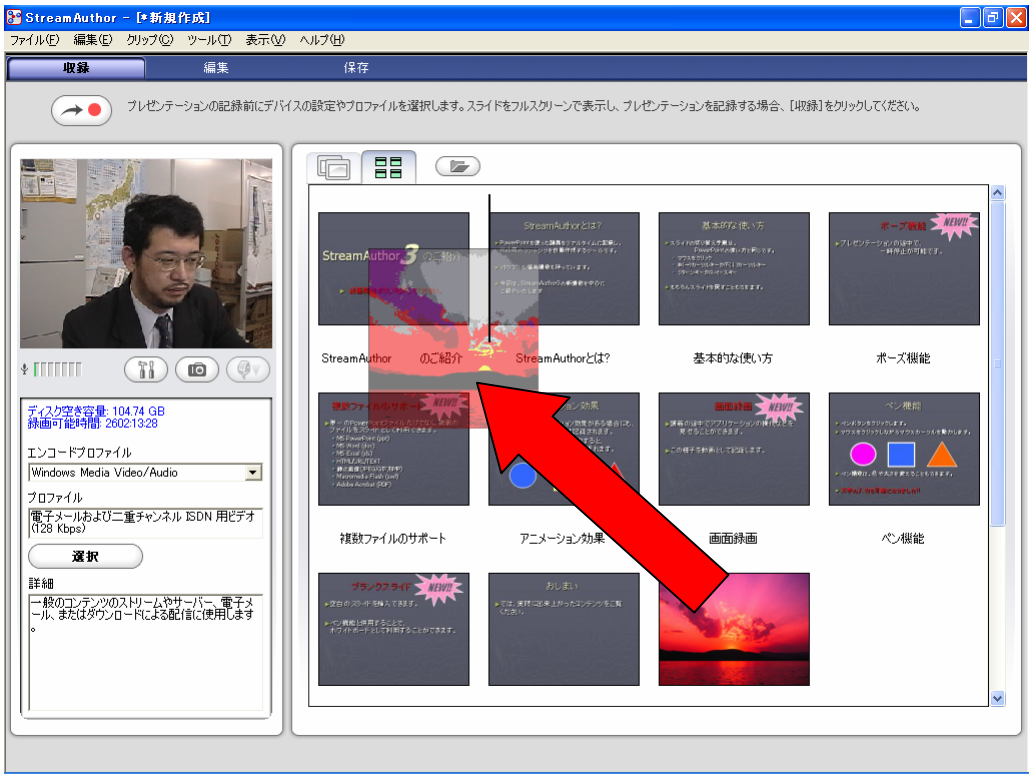


図 4 スライドの順番の変更

スライドを追加するには？

準備画面でスライドファイルを追加する場合は、[スライドの追加]ボタンをクリックして、追加するスライドファイルを選択します。

図 5 スライドの追加ボタン

プロファイル (動画の品質) を変更するには？

フルスクリーンモードでは、プロファイルを録画開始前に設定しておく必要があります。カメラからの映像は縦横のサイズが設定されますが、画面録画 (Windows スクリーンのキャプチャ) は Windows スクリーンのサイズ (縦横の解像度) がパソコンによってまちまちなので任意の設定のプロファイルを選択する必要があります。そのため、カメラからの映像と画面録画の映像それぞれにプロファイルを選択する必要があります。

図 6 プロファイルの変更

1. [エンコードプロファイル]を Windows Media Video/ Audio に変更します。

2. カメラ映像用の[プロファイル]を適切な値を選択します。
3. [エンコードプロファイル]を画面録画に変更します。
4. 画面録画用の[プロファイル]を適切な値に設定します。

プロファイルは、ビットレート（1秒当たりのデータ量）が最重要な構成要素になります。プロファイルのタイトルの後にはビットレートが記載されていますので、それを参考に選択します。ビットレートは一般的に大きな値を選択すると画質は向上しますが、データ量が大きくなるので配信ができなかったり低スペックのPCでは録画・再生ができなくなったりする場合があります。64kbps～384kbps での選択を推奨します。

キャプチャデバイスやその設定を変更するには？

準備画面で使用するキャプチャデバイスやキャプチャデバイスの設定を変更することができます。[キャプチャデバイスの設定]ボタンを押します。キャプチャデバイスの設定方法は、後述のキャプチャデバイスの設定を参照してください。

図 7 デバイスの設定

マイクの録音ボリュームを変更するには？

まずマイクの入力が適切かどうかを確認します。マイクに向かって、実際のプレゼンテーションと同じ声の大きさで話して見ます。このとき、マイク入力のレベルインジケータが一番左に行くか行かないかくらいに設定するのが適切です。

図 8 マイクインジケータ

もし、マイクの入力が低い場合は、音量を適切なレベルに調整します。音量調整の方法は以下のとおりです。

図 9 音量調整ボタン

1. [音量調整]ボタンをクリックします。
2. スライダを上下に移動させて、ボリュームを調整します。
3. 一番下のスピーカの絵に×がついている場合には、ミュート（無音）を意味します。

図 10 スライダ

音量の調整を行っても、マイク入力のレベルインジケータがまったく動かないか、しゃべっていないのに常に最大値になっている場合にはキャプチャデバイスの設定が間違っているか、周りの雑音を拾っている場合があります。

カメラからの映像を静止画で撮るには？

カメラからの映像を、静止画として保存するには[スナップショット]ボタンをクリックします。クリックしたタイミングの映像が、静止画(BMP)として保存できます。この機能はカメラが接続され、カメラが使用されている状態でのみ利用できます。

図 11 スナップショット

音声のみで収録する場合で、代替の映像（写真）を設定するには？

音声のみのコンテンツを作成する場合、人の顔の代わりに他の静止画(JPEG)形式を適用することができます[18]。[静止画の挿入]ボタンをクリックして適切な静止画を読み込みます。この機能は、カメラが接続されていないか、使用されていない場合のみ有効です。

図 12 静止画の挿入

ここで設定した静止画はコンテンツの最初から最後まで同じ静止画が表示されます。途中で替える場合には、タイムラインモードで設定する必要があります。

プレゼンテーションの開始と同時に収録を開始するのは？

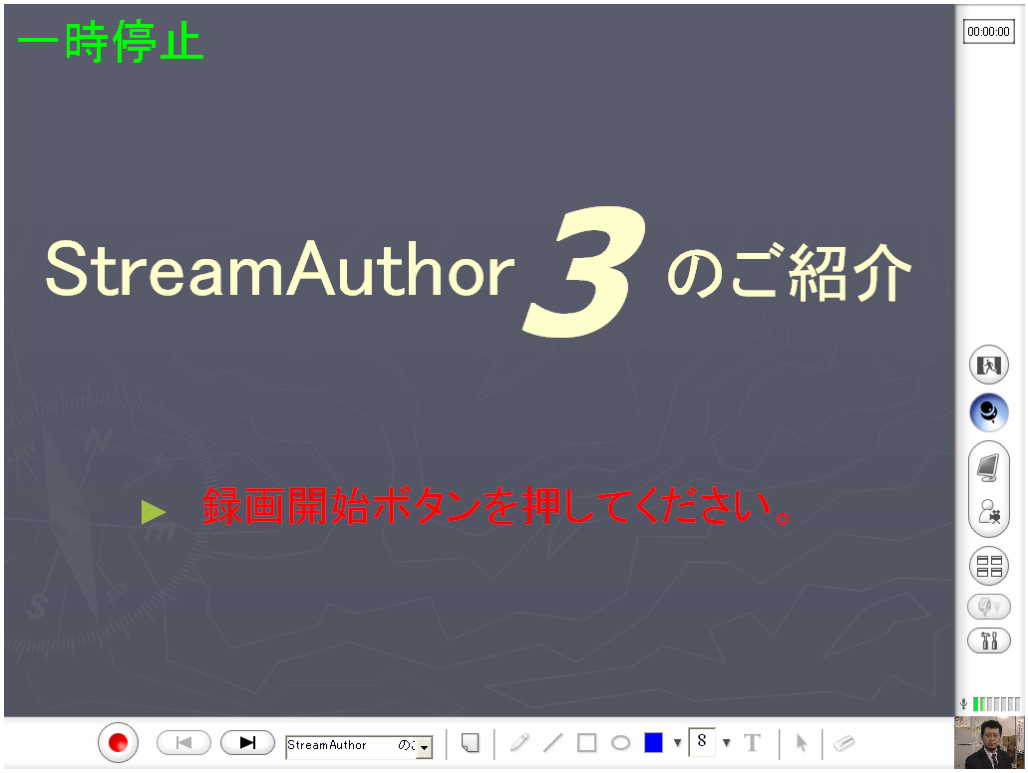
Steam Author のフルスクリーンモードでは、録画ボタンを押して収録を開始しても一時停止（ポーズ）状態になり、自動的には録画を開始しません。しかし、この状態では、しばしば一時停止状態の解除を忘れるなどの失敗が発生します。

[18] デフォルトは StreamAuthor のロゴです。

準備画面の録画ボタンを押すと同時に自動的に録画が開始されるようにするには、「自動的に録画を開始する」チェックボックスにチェックを入れます。
「自動的に録画を開始する」がチェックされている状態では、画面録画・カメラからの録画機能への切り替え時、画面録画・カメラからの録画機能からスライドでのプレゼンテーションの切り替え時にも自動的に録画が開始されます。ただし、切り替えには若干のタイムラグがあるため、切り替えのタイミングなどには映像・音声などが正しく記録できない部分が発生します。

フルスクリーンモード – 収録作業 (プレゼンテーション・講義の記録)

フルスクリーンモード – 収録中の画面の説明



収録の開始

フルスクリーン表示に切り替わった直後は、収録は一時停止された状態になっています。一時停止状態の場合は、画面左上に「一時停止」と表示されます。[録画]ボタンをクリックして、録画を開始してください。
「自動的に録画を開始する」チェックボックスにチェックが入っている場合には、自動的に録画が開始されますのでこの作業を行うことはありません。

図 13 録画ボタン

フルスクリーンモードの収録方法 ― スライドの切り替え

スライドの切り替えの基本的な操作は、PowerPoint の操作に準じています。

次のスライドに進む	前のスライドに戻る
画面上でマウスをクリック	
<Space>キーまたは<Enter>キー	<Back Space>キーキー
カーソルキーの<→><↓>のいずれか	カーソルキーの<←><↑>のいずれか
<Page Down>キー	<Page Up>キー
マウスの右ボタンをクリックし、ショートカットメニューの[次へ]を選択	マウスの右ボタンをクリックし、ショートカットメニューの[前へ]を選択
コントロールパネルの[次のスライド]ボタンをクリック	コントロールパネルの[前のスライド]ボタンをクリック

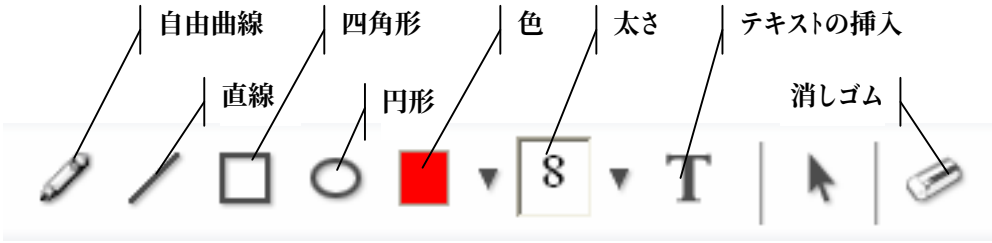
任意のスライドへ移動するには、コントロールパネルの[スライドタイトルの一覧]から任意のスライドを選択するか、サムネイルボタンをクリックしスライドをサムネイル表示したあと移動するスライドを選択します。

途中でプレゼンテーションの収録を一時停止するには？（ポーズ機能）

一時停止ボタンをクリックします。一時停止中は画面に「一時停止」と表示されます。一時停止を終了して、収録を再開するには録画ボタンを押します。

図 14 一時停止ボタン

スライドに書き込みを加えるには？（ペン機能）



ペン機能を利用する場合には、自由曲線・直線・四角形・円形のボタンをクリックしたあと、スライド上でマウスをドラッグ（マウスを押しながらマウスを移動）すると、スライド上に書き込みができます。

自由曲線の場合は、マウスを押したままマウスを動かした軌跡が記録され、その描画軌跡どおりに再生されます。

直線の場合は、マウスをクリックした位置を始点・離した位置を終点とする直線が描かれます。終点の選択中の仮線の動きは記録されませせん。コンテンツでは、マウスを離したタイミングで直線が描画されます。

四角形の場合は、マウスをクリックした位置が四角形の頂点の一つ（始点）とし、マウスを離した位置を始点の対角にあたる四角形を描画します。

円の場合は、マウスをクリックした位置が円に外接する四角形の頂点の一つ（始点）とし、マウスを離した位置を始点の対角にあたる円に外接する四角形の頂点となります。

スライドに文字を入力する場合は、[テキストの挿入]ボタンをクリックしたあと、マウスをドラッグしてテキストボックスを指定します。（ドラッグしない場合には、デフォルトのサイズのテキストボックスになりますが、テキストボックスのサイズを後で変更することはできません）同時にテキストメニューが表示されるので、フォントの種類やサイズを変更する場合は、ここで変更します。テキストボックスに文字を入力します。文字の入力が完了したら、テキスト入力ボタンを再度ク

リックして入力モードを終了するか、画面の任意の位置をクリックして新たなテキストボックスを指定します。コンテンツでは、キーボードの入力がそのまま記録されるのではなく、テキストボックスの入力が完了したタイミングで文字列全体が表示されます。[19]テキストボックスの背景は必ず白になり、スライドのその領域は隠されます。

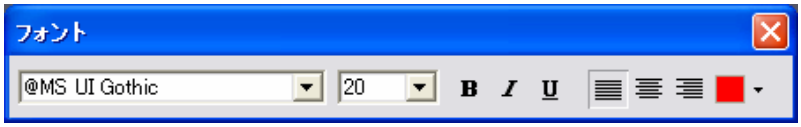


図 15 テキストツール

線の色や太さはパレットなどから選択することができます。また線を半透明にすることもできます[20]。
[消しゴム]ボタンをクリックすると、画面上の書き込みがすべて消去されます。書き込みの一部を削除することはできません。

ポインタのように指示をするには？（マウスの軌跡の記録）

[カーソルの録画]ボタンをクリックします。[カーソルの録画]ボタンがオンの状態で、スライド上でマウスを左クリックしたままマウスをドラッグします。このときのマウスの動きが記録されます。マウスから指を離した状態で移動しても記録されません。
終了する場合は、[カーソルの録画]を再度クリックして解除します。

図 16 カーソルの録画

ホワイトボードのように使うには？（ブランクスライド）

[ブランクスライド]ボタンを押すと現在表示されているスライドの次に真っ白なスライドが追加されます。これにペン機能を使って、書き込みを行うことによって黒板（ホワイトボード）の代わりに使うことができます。特にデジタルホワイトボードやタブレットをマウスの代わりに利用すると綺麗に描くことができます。

図 17 ブランクスライド

他ソフトウェアの操作手順やデモを記録する（画面録画）

[画面録画]ボタンをクリックします。スライドの表示からウィンドウの画面に切り替わります。このとき、画面録画制御パネルも表示されます。画面が切り替わった時点で、録画が一時停止の状態になっているので、必ず録画ボタンを押して、録画作業を開始してください。
画面録画の手順については別章を参照してください。
画面録画を終了して、元のスライドに戻るには、画面録画制御パネル上の停止ボタンをクリックするか、画面録画制御パネルの終了ボタンをクリックします。
画面録画におけるペン機能の使い方や注意事項は後述されています。

図 18 画面録画

スライドではなくカメラの映像や書画カメラを利用したい（カメラ映像の表示）

スライドではなく、カメラからの映像のみをスクリーン（プロジェクタ）に投影したい場合には、[ビデオキャプチャ]ボタンをクリックします。スライド表示からカメラ映像ウィンドウに自動的に切り替わります。

図 19 ビデオキャプチャ

[19] 実際のプレゼンテーションでは喋りながら文字を入力するのではなく、文字の入力をし終わらせてから説明をするほうがいいでしょう。
[20] 文字は半透明になりません。また、Netscape の場合には通常での線でも半透明にはなりません。

カメラ映像ウィンドウが最大表示された直後は、録画状態は一時停止になっているので必要に応じて録画状態にしてください。
映像の入力を切り替える場合は、[デバイスの設定]を押して入力デバイスを切り替えます。切り替える場合は、必ず録画状態を一時停止してください。
この画面のサイズはカメラからの入力サイズによりますので、拡大表示（フルスクリーンでの表示）などの機能はありません。
カメラ映像ウィンドウを終了するとスライドに自動的に切り替わります。

スライドの一覧を見たい（サムネイル表示）

プレゼンテーション中に、スライドの一覧（スライドの縮小表示）を見るためには、[すべてのスライドを表示]ボタンをクリックします。
表示されたサムネイルをダブルクリックすると、そのスライドが全画面表示されます。

図 20 すべてのスライドを表示

再度[すべてのスライドを表示]ボタンをクリックすると、スライドの全画面表示に戻ります。

ボタンなどを非表示にして、スライドのみ表示するには？

右端および下端にあるボタンなどを非表示にするには、[常に表示]ボタンをクリックしてボタンを解除状態にします。
[常に表示]ボタンが解除状態でも、マウスカーソルを右端もしくは下端に移動させるとボタンは表示されます。
再度、表示されたままにするためには、[常に表示]ボタンをクリックして、押下状態にします。

図 21 常に表示

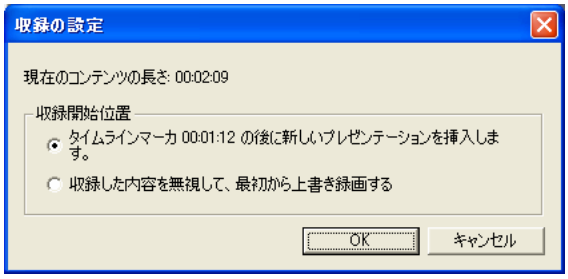
収録を終了するには？

収録を終了するには、[終了]ボタンをクリックします。終了すると、プロジェクトの保存を要求されます。プロジェクトは、作業の内容が記録された重要な情報なので、保存することを強くお奨めします。プロジェクトの保存後（もしくはキャンセル後）、準備画面に戻ります。

図 22 終了

収録の再開（再録画）

準備画面に戻った後再度[収録]ボタンをクリックすると、タイムラインマーカの位置から記録（挿入）するか、最初から上書きするかを確認されます



タイムラインマーカの位置は、編集作業にて移動することができます。移動させなかった場合はコンテンツの最後から追加されます。タイムラインマーカを移動させた場合は、その位置に記録が挿入されます。上書きされないので注意してください。

同期 － タイムラインモード

タイムラインモードの起動

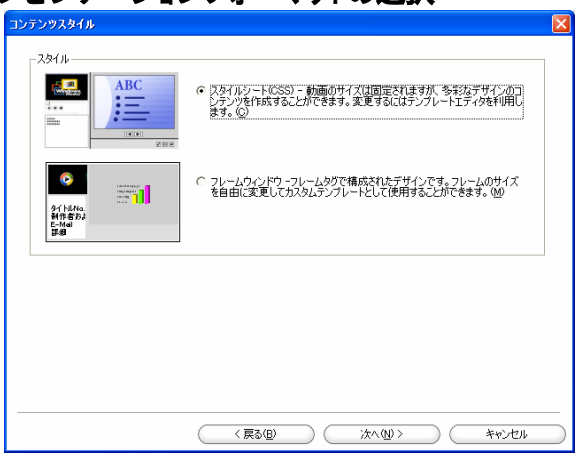
Stream Author の起動

スタートメニューから StreamAuthor3 を選択するか、デスクトップ上の StreamAuthor3 アイコンをダブルクリックします。

フルスクリーンモードの選択

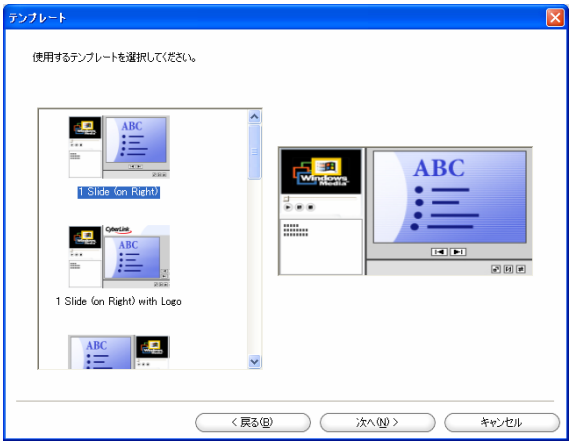
タイムラインモードを選択します。

プレゼンテーションフォーマットの選択



「CSS(カスケーディングスタイルシート)」か「フレーム」を選択します。プレゼンテーションフォーマットは、作業中やコンテンツ中で変更することはできません。
CSS（カスケーディングスタイルシート）は、自作のデザインを作成し利用することができます。フレームは、視聴者によって動画とスライドの大きさの比率を自由に変更することができますが、自作のデザインを作成することはできません。

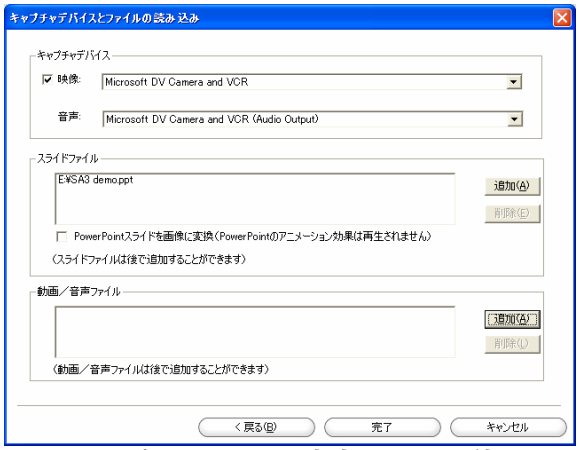
テンプレートの選択



（フレームデザインを選択した場合は、この画面は異なります）

実際に使用するテンプレートデザインを選択します。テンプレートデザインは作業開始後に変更することができます。自作のデザインを利用する場合には、作業開始後にテンプレートデザインを入れ替える必要がありますので、その場合には適当なテンプレートを仮に選択します。

キャプチャデバイス・スライドファイル・動画ファイルの選択



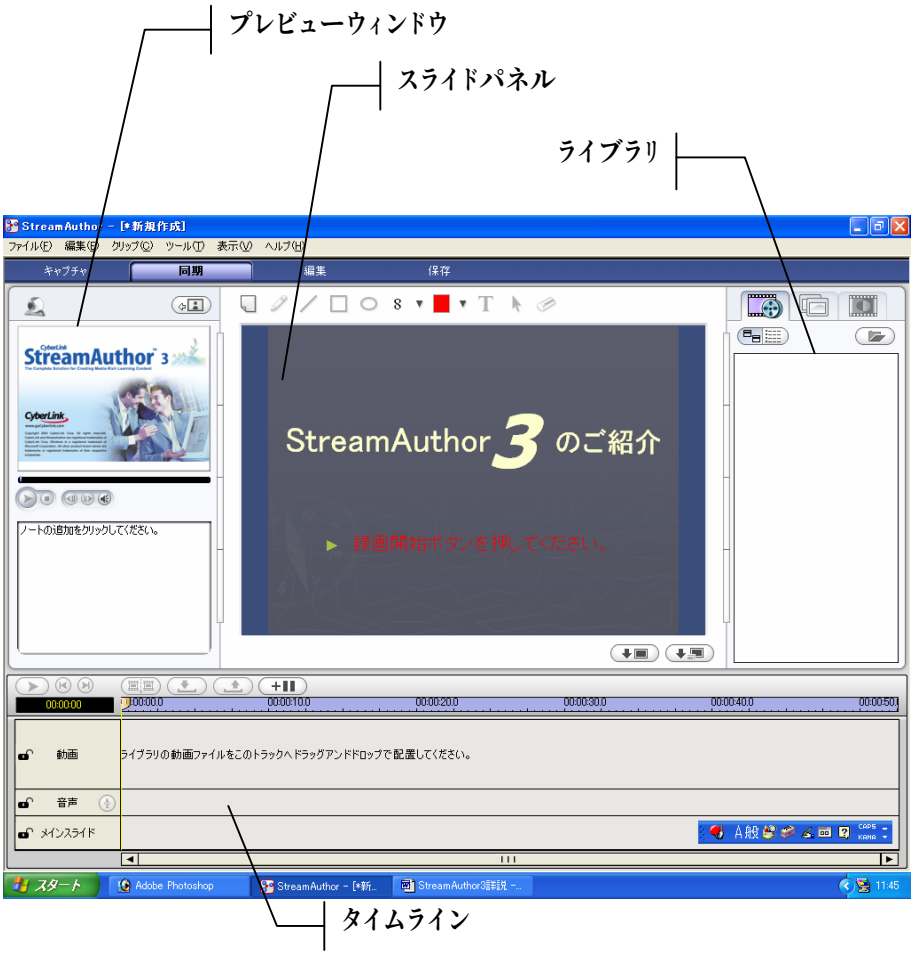
ビデオキャプチャデバイス・音声デバイスと使用するスライドを選択します。
ビデオキャプチャデバイスが接続されていない場合には、ビデオキャプチャボードを選択することはできません。ビデオキャプチャデバイスが接続されているのに使用しない場合[21]には、ビデオ選択肢横のチェックボックスを外します。
キャプチャデバイスは、作業開始後に変更することができます。
スライド項目の[追加]ボタンをクリックして、利用するスライドをすべて選択します。ただし、URL（ホームページ）を直接指定する場合のみ、ここでは指定することができません。準備画面

[21] その場合、音声のみ収録されます。

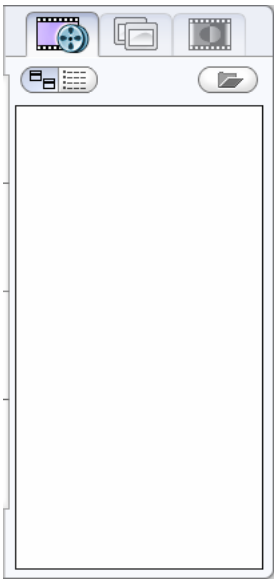
で追加してください。スライドファイルはここで選択しなくても、後で追加することができます。
[スライドを画像形式で読み込む]にチェックを入れると、PowerPoint スライドは HTML 形式ではなく、JPEG 形式で読み込まれます。PowerPoint スライドの HTML 変換に失敗する場合[22]にここにチェックを入れることによって解決する場合があります。ただし、この機能を利用した場合には、PowerPoint スライドのアニメーション効果は再生されなくなります。また、本機能は PowerPoint スライドのみに有効で、その他の形式は HTML に変換されます。
メディアファイル項目の[追加]ボタンをクリックして、利用する動画ファイル（もしくは音声・静止画ファイル）を選択します。動画ファイルは作業開始後に追加することもできます。既存の動画ファイルを使用しない場合には、選択する必要はありません。
以上の設定のあと[完了]ボタンをクリックします。

[22] トラブルシューティング・TIPS 集を参照のこと

タイムラインモードの画面



ライブラリの説明



動画/音声タブ

動画（動画トラックに配置する静止画を含む）・音声ファイルを選択できます。

スライドタブ

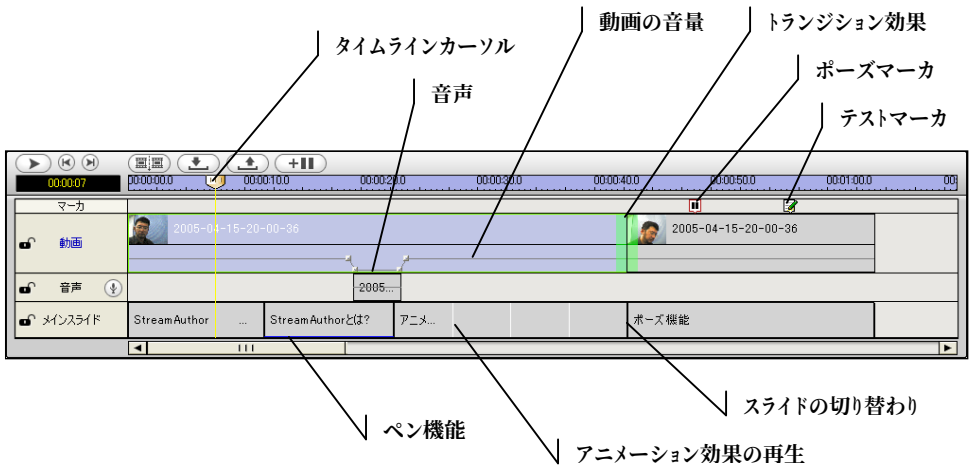
PowerPoint などのスライドの一覧を表示します。PowerPoint は各スライドに分割して表示します。Excel は各ワークシートに分割して表示します。それ以外のファイルは単一のスライドとして表示します。

トランジションタブ

動画と動画の間に、場面の切り替わりを明示するための特殊効果をトランジションといいます。このトランジション効果を選択できます。
実際の動きは各トランジションの上にマウスカーソルを重ねると確認すること

ができます。

タイムラインの説明



動画をタイムラインに配置するには？

動画をタイムラインに挿入するには以下の二通りの方法があります。

① タイムラインカーソル位置に挿入

1. 動画を挿入する位置（タイミング）にタイムラインカーソルを移動します。
2. ライブラリ上の動画をダブルクリックするか、右クリックメニューから挿入を選択します。

② ドラッグアンドドロップで挿入

1. ライブラリ上の動画を選択し、タイムライン上にドラッグアンドドロップで配置します。

スライドと動画を同期させるには？

スライドをタイムライン上に配置して同期するには、以下の三通りの方法があります。

① 同期ボタンで挿入

1. 動画を、再生・録画[23]・一時停止・停止のいずれの状態でもこの手順での作業は可能ですが、再生・録画状態で作業を行うことをお奨めします。
2. [次スライドを同期]ボタンをクリックして、スライドを切り替えると同時に切り替えたスライドをその位置（タイミング）に挿入します。[同期]ボタンをクリックすると、現在表示されているスライドがその位置（タイミング）に挿入されます。

図 24 次スライドを同期

図 23 同期

[23] タイムラインモードの同期作業中に録画する方法については、「動画を録画しながら同期するには？」を参照してください。

② タイムラインカーソル位置に挿入

1. 動画を一時停止･停止状態にして、挿入する位置にタイムラインカーソルを移動します。
2. ライブラリ上のスライドをダブルクリックするか、右クリックしてメニューから[挿入]を選択します。

③ ドラッグアンドドロップで挿入

1. ライブラリ上のスライドをドラッグアンドドロップで、タイムラインカーソルの任意の位置（タイミング）に移動します。

動画を録画しながら同期するには？

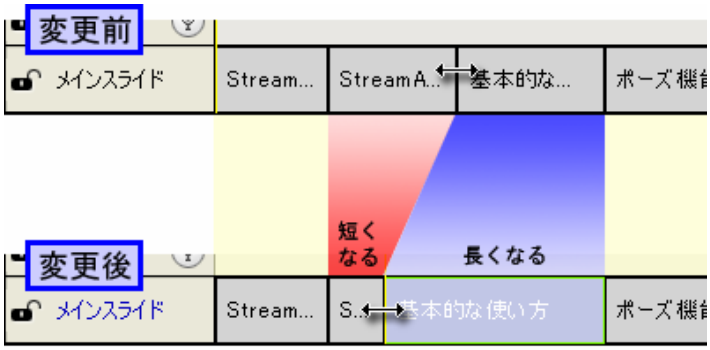
1. カメラボタンをクリックして、録画モードに切り替えます。
   映像がカメラからの映像に切り替わります。このとき、同時に再生ボタンも録画ボタンに切り替わります。
2. [録画]ボタンを押します。
3. 録画中に、[次スライドを同期][同期]ボタンを押して、スライドとの同期を設定することもできます。
4. 録画終了時には、[停止]ボタンを押します。
5. カメラボタンを再度クリックして録画モードを終了します。

図 25 カメラの切り替えおよび録画ボタン

動画とスライドの同期のタイミングを変更するには？

切り替わりのタイミングだけ変更する

1. スライドなどの切り替わりのタイミングにマウスカーソルを移動すると、マウスカーソルが横矢印になります。
2. その状態で、マウスをクリックしたまま左右に移動します。
3. 適切なタイミングに移動したら、マウスボタンを離します。

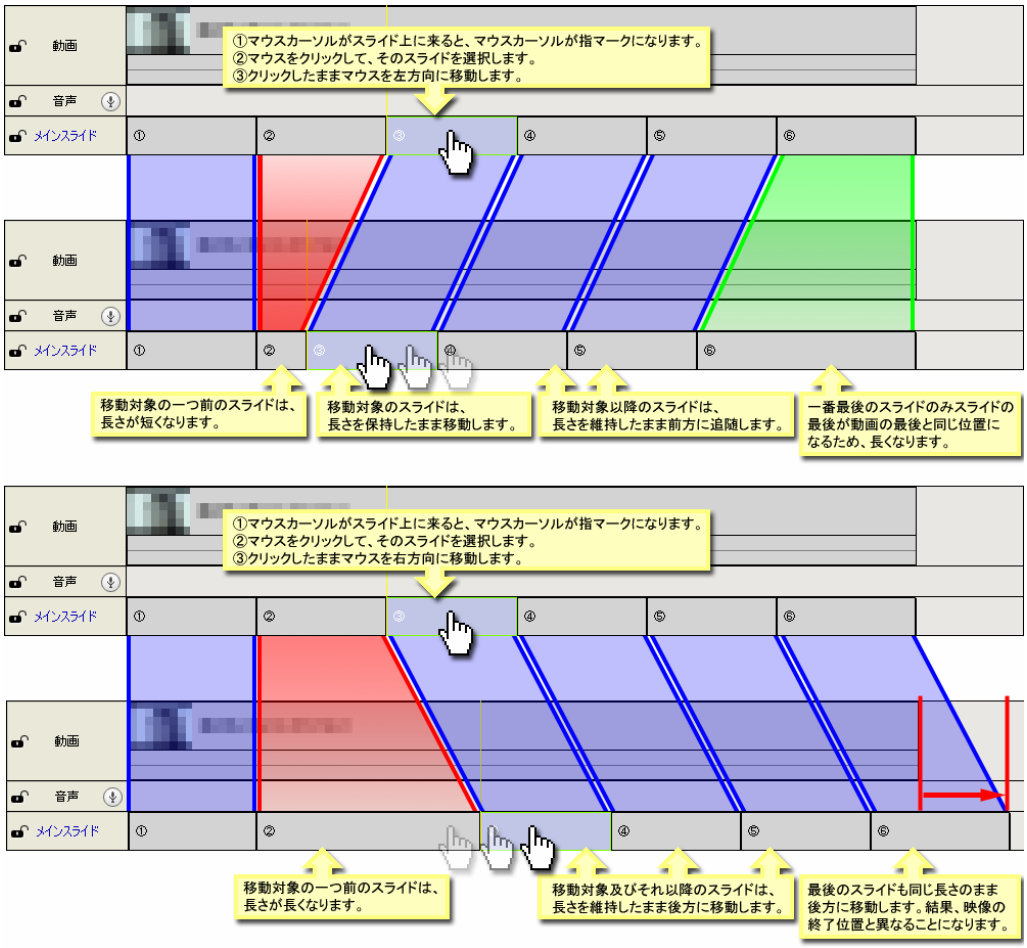


スライドなどの切り替わるタイミングだけが移動する

※ 動画で切り替わりのタイミングを変更した場合、カット･分割した位置の変更となります。
※ カット分割していない動画に対しては、この作業を行うことはできません。

移動

1. マウスカーソルをスライドなどの真ん中付近（切り替わりのタイミング以外）に移動すると、人差し指のマウスカーソルになります。
2. その状態で、マウスをクリックしたまま左右に移動します。
3. 適切なタイミングに移動したらマウスボタンを離します。



スライドの削除

誤って挿入したスライドをタイムライン上から取り除くには、タイムライン上で取り除くスライドを右クリックしてメニューから削除を選択します。

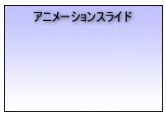
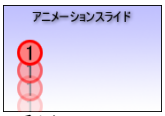
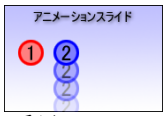
素材の移動時に他の素材の移動（追随）を禁止する

タイムラインモードで、素材を移動したときには他のタイムライン上の素材も同時に移動します。しかし、素材の移動があっても他の素材の移動を禁止したい場合には、ロック機能を利用します。
ロック機能は各タイムライン上の左端の南京錠マークによって機能します。このロック機能（南京錠マーク）は「南京錠がロックされた状態の場合、そのタイムラインの編集はできない」状態を意味しています。南京錠が開いた状態では、他のタイムラインの移動にあわせてそのスライドも移動します。南京錠が閉じた状態では、他のタイムラインが移動しても、そのタイムラインは移動しません。
動画（音声）がロックされた状態では、動画のカット・分割はできません。

図 26 ロック機能

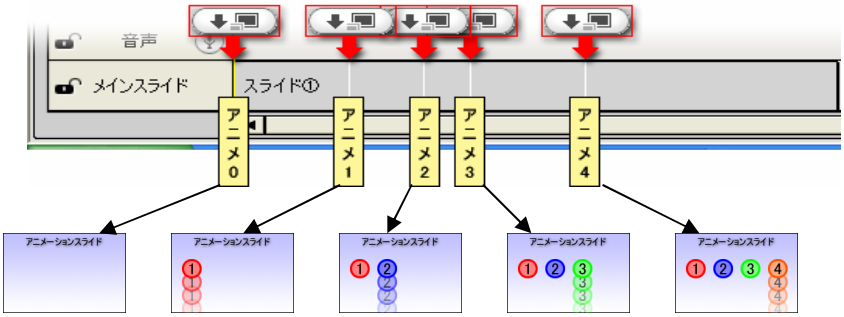
アニメーション効果の編集

アニメーション効果を説明するにあたって、以下のようなアニメーション効果を持つスライドを元に説明を行います。

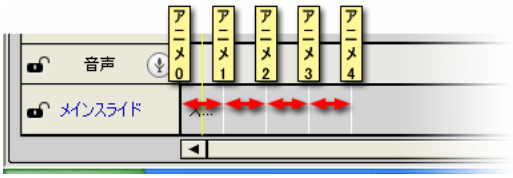
アニメ 0	アニメ 1	アニメ 2	アニメ 3	アニメ 4
				
アニメーションが実行されていない状態	1 番目のアニメーションが実行された状態	2 番目のアニメーションが実行された状態	3 番目のアニメーションが実行された状態	4 番目のアニメーションが実行された状態

アニメーション効果の挿入

スライドの挿入方法で、同期ボタンで挿入すなわち[次スライドを同期]ボタンを押す場合には、次のアクションがスライドの切り替えではなく PowerPoint アニメーションの場合には PowerPoint アニメーションの再生のタイミングが挿入されます。アニメーション効果は白線で示されます。

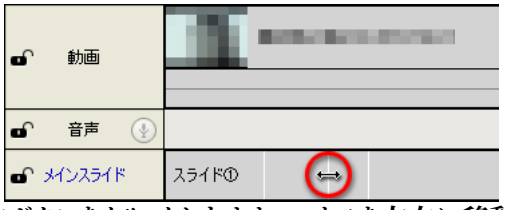


ドラッグアンドドロップもしくはライブラリ上のスライドをダブルクリックして、スライドをタイムライン上に配置した場合には、アニメーション効果は[ツール]→[環境設定] →[タイムライン]の「PowerPoint のアニメーションの動作間隔」の設定にしたがって、等間隔にアニメーション効果が設定されます。



アニメーションの開始位置の修正

アニメーションを示す、白線の上にマウスカーソルを持ってくると、マウスカーソルが左右の矢印に変わります。

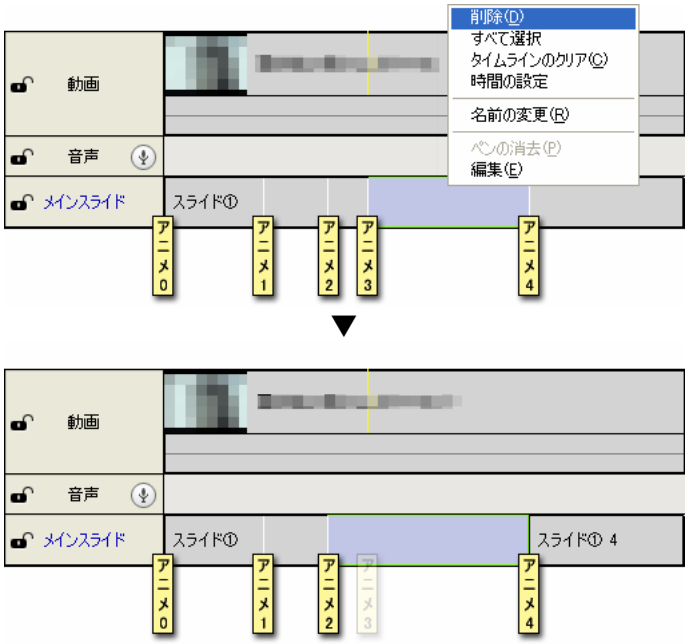


この状態で、マウスの左ボタンをクリックしたまま、マウスを左右に移動すると、アニメーションの開始位置も同時に左右に移動します。これによって、アニメーションの開始位置を修正することができます。

アニメーション効果の削除

（※この動作は、ビルド 05-0311 のものです。）

アニメーション効果を削除するには、そのアニメーションから始まるエリアを選択し、右クリックして、「削除」を選択します。



この結果アニメーションは以下のような動作をします。

アニメ 0	アニメ 1	アニメ 2	アニメ 4
スライドが表示された直後の状態	1 番目のオブジェクトのアニメーション	2 番目のオブジェクトのアニメーション	4 番目のオブジェクトのアニメーションが実行される。3番目のオブジェクトは4番目のオブジェクトのアニメーションの開始と同時にいきなり現れる。

動画を編集するには？

動画の前後の不要な部分をカットする

1. 動画を停止・一時停止状態にしてください。
2. カットする位置にタイムラインカーソルを移動します。
3. [前をカット][後ろをカット]ボタンのいずれかをクリックします。

図 27「前をカット」「後ろをカット」

※カットを行った場合は、そのカットした分は自動的に詰まります

動画を分割する

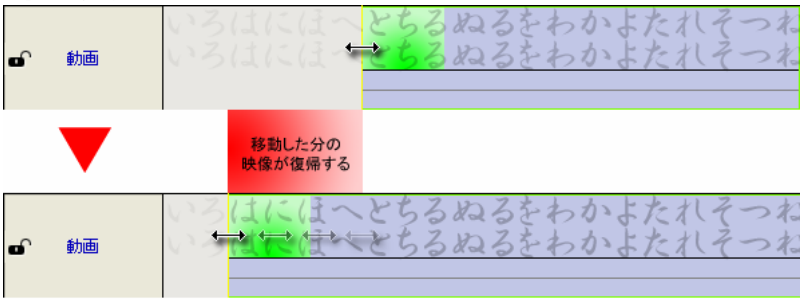
1. 動画を停止・一時停止状態にしてください。
2. 分割する位置にタイムラインカーソルを移動します。
3. [分割]ボタンをクリックします。
4. 分割された位置に他の動画を挿入するのであれば、タイムラインカー

図 28 分割

ソルを分割した位置に移動[24]して、ライブラリ上の動画をダブルクリックします。

5. 動画の中間の一部分をカットする場合には、カットする前後をそれぞれ分割し、中間の映像を右クリックして削除を行います。

カット・分割位置の変更



カット・分割した動画・音声の切れ目の位置を変更すると、動画の位置を変更するのではなく、切れ目の位置を変更します。
したがって、本来の動画の始点・終点を超えての変更はできません。

動画の結合について

Stream Author はコンテンツ保存時に必要に応じて自動的に動画を結合させるため、タイムラインにおいて結合する機能はありません。

トランジション効果 ー 動画と動画の間の特殊効果を設定するには？

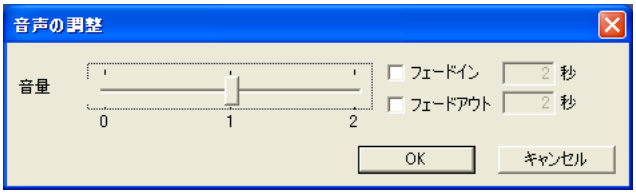
トランジション効果を設定するには、以下の2通りの方法があります。

- タイムラインカーソルを動画と動画の間に移動[25]して、ライブラリ上の適用するトランジション効果をダブルクリックします。
- ライブラリ上の適用するトランジション効果をドラッグアンドドロップで、適用する動画と動画の間に配置します。

音量を調整するには？

各動画・音声について調整する

1. タイムライン上の音量を調整する動画・音声素材を右クリックして、音量の調整を選択します。
2. 音量の調整ダイアログが起動します。



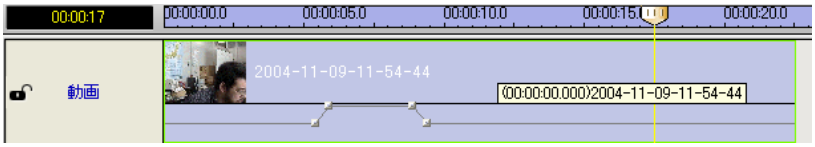
3. 最大2倍の音量まで調整できます。
4. 必要に応じて音声の前後をフェードイン（無音から徐々に音量を上げる）・フェードアウト（徐々に音量を下げて無音にする）ができます。

動画の特定の部分の音量を調整する

プレゼンテーションの途中で質問などを受けた場合、質問者は通常マイクから離れているた

[24]分割位置に簡単に移動するには、「素材の前後のタイムラインカーソルを簡単に移動する」を参照してください。
[25]分割位置に簡単に移動するには、「素材の前後のタイムラインカーソルを簡単に移動する」を参照してください。

め、質問の内容が聞きづらい場合があります。この場合、一部分の音量を調整する必要があります。
動画トラック下段のグラフ（もしく音声トラック中にグラフ）は音量を意味しています。このグラフをマウスで調整することにより、一部分の音量を調整することができます。



動画をライブラリに追加するには？（すでに動画ファイルが存在する場合）

1. ライブラリの、動画/音声タブを選択します。
2. 素材の追加ボタンをクリックします。
3. 読み込む素材（動画・音声・静止画ファイル）を選択します。

動画をライブラリに追加するには？（動画ファイルを作成する場合）

動画ファイルを持っていない場合で、動画素材だけ作成する場合には、キャプチャ作業で行います。キャプチャ作業の詳細は別章「キャプチャ-タイムライン」を参照してください。

スライドをライブラリに追加するには？

1. ライブラリの、スライドタブを選択します。
2. 素材の追加ボタンをクリックします。
3. 読み込む素材（PowerPoint/Excel/Word ファイルなど）を選択します。

スライドを修正するには？

編集作業中に、スライドに間違いに気づいた。または昔作ったコンテンツから変更点が出た場合などにスライドを修正する必要があります。

1. タイムライン上、もしくはライブラリ上の PowerPoint を選択します。
2. 右クリックして、[編集]を選択します。そのスライドが PowerPoint で起動します。（ほかのスライドは起動しません）
3. PowerPoint 上で修正を行って保存してください。
4. 保存後 PowerPoint を終了してください。
5. PowerPoint スライドが更新されます。

※ この機能は PowerPoint のみに有効で、Word/Excel などでは使用できません。また PowerPoint97 の環境でも使用できません。これらの場合は、直接元のファイルを修正して、再読み込みした後、タイムライン上のスライドと入れ替える必要があります。
※ 画像として PowerPoint スライドを読み込んだ場合には使用できません。

素材の前後のタイムラインカーソルを簡単に移動する

タイムラインカーソルを素材の前後合わせることは、マウスカーソルの操作だけでは困難です。しかし、動画のトランジション効果や動画と動画の間に別の動画を挿入する場合は、素材の前後にタイムラインカーソルを合わせる必要があります。
これらの場合は、「前の動画/音声」「次の動画/音声」ボタンをクリックすることによって、簡単に移動することができます。

ボタンの名前は動画/音声となっていますが、スライドの前後に移動することも可能です。

一時停止マーカを挿入する (コンテンツに一時停止を挿入する)

出来上がったコンテンツの特定のタイミングに一時停止を設定することができます。コンテンツの再生中に一時停止のタイミングに達すると、任意のメッセージが表示され[OK]ボタンを押すまでコンテンツは一時停止します。これによって、視聴者の集中力を継続させたり、コンテンツを再生したまま離席してもコンテンツが最後まで達することができないので学習終了とならないようにしたりすることができます。

1. タイムラインカーソルを、一時停止マーカを挿入する位置に移動します。
2. 一時停止マーカボタンをクリックします。
3. 表示する任意のメッセージを入力します。
4. 一時停止マーカは、ドラッグすることによってタイムライン上の任意の位置に移動することができます。

図 29[一時停止マーカ]ボタンおよび[一時停止マーカ]

キャプチャ　－　タイムラインモード

キャプチャ作業の画面

DV カメラ(iLink/IEEE1394 経由)で録画するには？

1. DV カメラとパソコンを IEEE1394[26]のケーブルで接続します。
2. DV カメラをカメラとして利用する場合は撮影モードにしてください。DV テープから録画する場合は再生モードにしてください。[27]
3. [DV カメラ(iLink)]ボタンをクリックします。
4. 必要に応じてプロファイルを選択します。
5. [録画]ボタンをクリックします。再生モードの場合は、録画ボタンをクリックすると同時にテープの再生が開始されます。
6. 録画が終了したら、[停止]ボタンをクリックします。再生モードの場合は、停止ボタンをク

[26] iLink/FireWire と呼ばれる場合もありますが、同じ規格です。
[27] 撮影モード･再生モードは DV カメラの機種によっては別の呼称の場合があります。

リックすると同時にテープも停止します。
7. ファイルの保存を求められるので、適切なフォルダとファイル名を指定して保存してください。失敗したなどで、必要が無い場合はキャンセルしてください。
8.

※ DV カメラ(iLink)での録画の場合、(音声デバイスを iLink 以外に変更しても) 音量の調整はできません。
※ DV カメラから iLink を経由せず、S-Video 端子やコンポジット経由で録画する場合は、アナログキャプチャカードからの録画を参照してください。
※ DV カメラから USB 経由での録画は対応しておりません。

アナログキャプチャカードから録画するには？

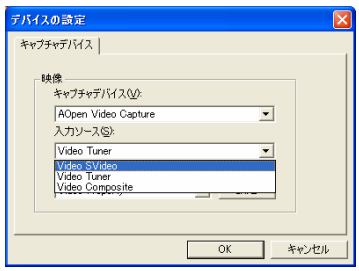
1. ビデオデッキ (もしくはビデオカメラ) とパソコンのキャプチャカードを S-Video もしくはコンポジットケーブルで接続します。
2. [TV チューナーカード]ボタンをクリックします。
3. 必要に応じてプロファイルを選択します。
4. テープから録画する場合は、テープを再生状態にします。
5. [録画]ボタンをクリックします。
6. 録画が終了したら、[停止]ボタンをクリックします。
7. ファイルの保存を求められるので、適切なフォルダとファイル名を指定して保存してください。失敗したなどで、必要が無い場合はキャンセルしてください。

※ Stream Author が対応しているアナログキャプチャカードは、WDM ドライバに対応したキャプチャボード[28]です。ハードウェアエンコーダボード[29]には対応しておりません。
※ ほとんどのキャプチャカードは音声の入力に対応していないため、音声の入力はオーディオカードに接続する必要があります。詳しくはキャプチャカードの説明書をご参照ください。

カメラを接続しても映像が表示されない場合

入力ソースが正しく設定されていない場合、映像が表示されません。以下の手順で入力ソースを確認してください。

1. [TV チューナーカード]ボタンをクリックします。
2. [キャプチャデバイス]ボタンをクリックします。
3. 入力ソースを切り替えます。通常デフォルトは Video Tuner (アンテナからの入力) になっていると思われます。Video S-Video か Video Composite に切り替えます。
4. 以上の手順でも正常に表示されない場合は、キャプチャカード付属のアプリケーションで動作確認をした上、弊社サポートにお問い合わせください。



Web カメラ (USB カメラ) から録画するには？

1. Web カメラ(USB カメラ)をパソコンに接続します。(必要に応じてドライバを設定してください。)
2. [Web カメラ(USB カメラ)]ボタンをクリックします。
3. 必要に応じてプロファイルを選択します。
4. [録画]ボタンをクリックします。

---

[28] WDM ドライバ以外に VfW(Video for Windows)という古い規格があります。この規格のドライバでは動作いたしません。詳しくは各キャプチャカードのメーカにお問い合わせください。
[29] Canopus 社の MTV シリーズなど。詳しくは弊社までお問い合わせください。

5. 録画が終了したら、[停止]ボタンをクリックします。
6. ファイルの保存を求められるので、適切なフォルダとファイル名を指定して保存してください。失敗したなどで、必要が無い場合はキャンセルしてください。

音声のみ録音するには？

1. マイク（もしくはオーディオケーブル）をパソコンのサウンドカードの音声入力に接続します。
2. [音声のみ録音]ボタンをクリックします。
3. 必要に応じてプロファイルを選択します。（このときは、音声のプロファイルのみ表示されます。）
4. [録画][30]ボタンをクリックします。
5. 録音が終了したら、[停止]ボタンをクリックします。
6. ファイルの保存を求められるので、適切なフォルダとファイル名を指定して保存してください。失敗したなどで、必要が無い場合はキャンセルしてください。

Audio-CD（音楽 CD）から音を取り込むには？

1. Audio-CD（音楽 CD）を CD-ROM ドライブに挿入してください。
2. [CD のリッピング]ボタンをクリックします。
3. Audio-CD を挿入した CD-ROM ドライブと取り込む音楽トラックを選択してください。
4. [録画]ボタンをクリックします。
5. 録音が終了するとファイルの保存を求められるので、適切なフォルダとファイル名を指定して保存してください。失敗したなどで、必要が無い場合はキャンセルしてください。

※ 市販の音楽 CD の録音は、著作権の侵害となる可能性があります。著作権フリーなどと書かれた Audio-CD 以外の録音はご注意ください。

※ 一部音楽 CD は録音ができないものがあります。

画面録画をするには？

1. [画面録画]ボタンをクリックします。
2. 以降の手順は別章の「画面録画」を参照してください。

※ キャプチャ作業で録画した画面録画の映像は AVI 形式で保存されます。この AVI ファイルの CODEC は特殊なものですので、Stream Author 以外での再生・編集については保障致しかねます。

プロファイルを変更するには？

プロファイルは、動画の品質を決定する様々な要素の組み合わせです。動画を録画する際にはこのプロファイルを指定しておく必要があります。

1. [プロファイル]ボタンをクリックします。
2. 適切なプロファイルを選択します。

※ プロファイルの作成方法は別章で説明します。

※ 画面録画の作業を行う場合、AVI 形式で録画するため、プロファイルを選択する必要はありません。

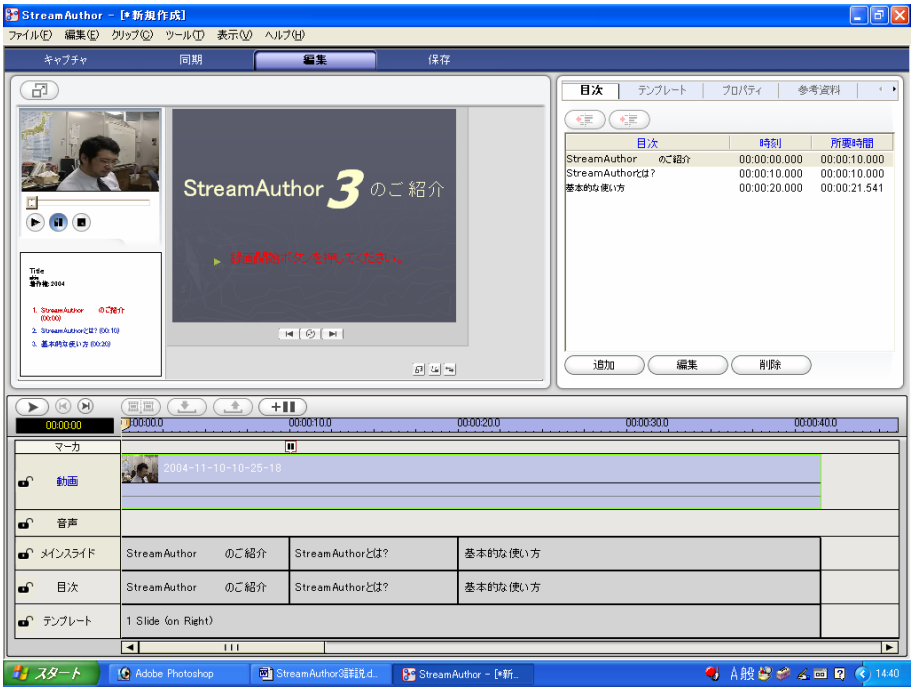
[30] 実際に行う作業は「録音」ですが、「録画」と表示されます。

編集

編集作業は、フルスクリーンモード・タイムラインモード共通の作業項目です。ここでは、先の収録/同期作業で作成したコンテンツをより詳細に編集して行きます。詳細に編集する必要が無ければ、本項目は読み飛ばしてもかまいません。

編集作業の画面

編集作業の右上には、各編集項目タブがあります。隠れて見えない場合は、右端の三角ボタンを押すことで隠れている項目を見ることができます。
この章では各項目について説明して行きます。
なお、タイムライン上で動画編集や各要素の移動などの作業はできますが、録画・配置といった作業はできません。これらの作業が必要な場合は、収録・同期作業に戻って行ってください。



目次の編集

目次はどのように自動作成されるか？

通常目次は自動作成されます。目次の文字列は、各 PowerPoint スライドのタイトルを使用しますが、それ以外のケースでは以下のような規則で作成されます。

- タイトルの無い PowerPoint スライド　　ファイル名 + スライドの番号 (ページ数)
- URL　　URL
- それ以外(Word/Excel etc)　　ファイル名

目次を追加･削除するには？

目次は作成時には1スライドにつき一つ作成されますが、編集によって追加･削除することができます。

【追加】

1. 目次項目を選択します。
2. タイムラインで目次を追加 (挿入) する位置にタイムラインカーソルを移動します。
3. (目次の) [追加]ボタンをクリックします。
4. 目次の追加ダイアログに、目次の文字列を入力します。

【削除】

- 削除する目次項目を選択して、[削除]ボタンをクリックします。
- もしくはタイムライン上の削除する目次を選択して、「タイムラインから削除」を選択します。

目次の文字列を変更するには？

1. 変更する目次を選択します。
2. [編集]ボタンをクリックします。
3. ダイアログが表示されるので、文字列を修正します。

目次を階層化 (インデント) するには？

目次は、最大5段階まで階層化できます。

1. 階層化する目次項目を選択します。
2. インデントボタンをクリックして、階層化します。クリックする回数によって、階層がより深く／浅くなります。

コンテンツ上の目次から、連番や時間を消すには？

1. メニューの[編集]→[目次の設定]を選択して、目次の設定ダイアログを表示します。
2. [目次マーカの時間を表示する][目次マーカの番号を表示する]のチェックを解除します。

コンテンツ上の目次のフォントを変更するには？

1. メニューの[編集]→[目次の設定]を選択して、目次の設定ダイアログを表示します。
2. 目次の文字設定で、目次を選択し、[修正]ボタンをクリックして適切なフォントを選択してください。

テンプレート

設定したテンプレートを別のものに置き換えるには？

1. タイムライン上の変更するテンプレートを右クリックして、[テンプレートの変更]を選択します。
2. テンプレートの選択ダイアログから変更するテンプレートを選択します。

画面のデザイン (テンプレート) をコンテンツの途中で変更するには？

1. テンプレートタグを選択します。

2. タイムラインカーソルを、テンプレートを変更する位置に移動します。
3. 変更するテンプレートをダブルクリックします。

※ 変更するテンプレートを、変更するタイミングにドラッグアンドドロップで移動することによっても変更することもできます。

自作のテンプレートを利用するためには？

自作のテンプレートを作成する手順は、別章の[テンプレートエディタ]を参照してください。以降の作業はテンプレートエディタでテンプレートの作成が完了していることを前提としています。この作業はスタイルシート(CSS)テンプレートのみ有効です。

1. [テンプレートの読み込み]ボタンをクリックします。
2. テンプレートの読み込みダイアログで、読み込むテンプレートのフォルダを選択します。
3. 読み込むテンプレートの表示名（任意の名前）をつけます。
4. 登録が、前の説明と同じようにテンプレートを利用することができます。

プロパティ　　－ コンテンツ概要の変更・SCORM の設定

コンテンツの概要を変更するには？

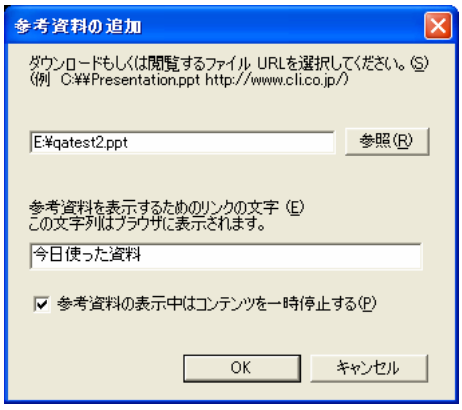
プロパティタグを選択し、各項目を変更することができます。これらの内容はコンテンツ上に表示されます。また SCORM のメタデータに関連する項目についても同時に変更します。

SCORM のメタデータを設定するには？

SCORM ボタンを押すと、SCORM のメタデータを変更することができます。これらの項目はコンテンツを e-Learning(LMS)システムで活用する場合により詳細な項目設定を行うことができますが、LMS で活用しない場合には設定する必要はありません。
メタデータを修正すると、関連するプロパティの項目も同時に変更されます。

参考資料－ 使用したファイルや見てほしいホームページを添付するには？

1. 参考資料タブを選択します。
2. 参考資料に使うファイルもしくは URL を指定します。
3. この参考資料を表示するためのリンクに使用する文字列を指定します。
4. 複数の参考資料を指定する場合はこの作業を繰り返します。



テスト－ 小テストを作成するには？

テスト機能の注意

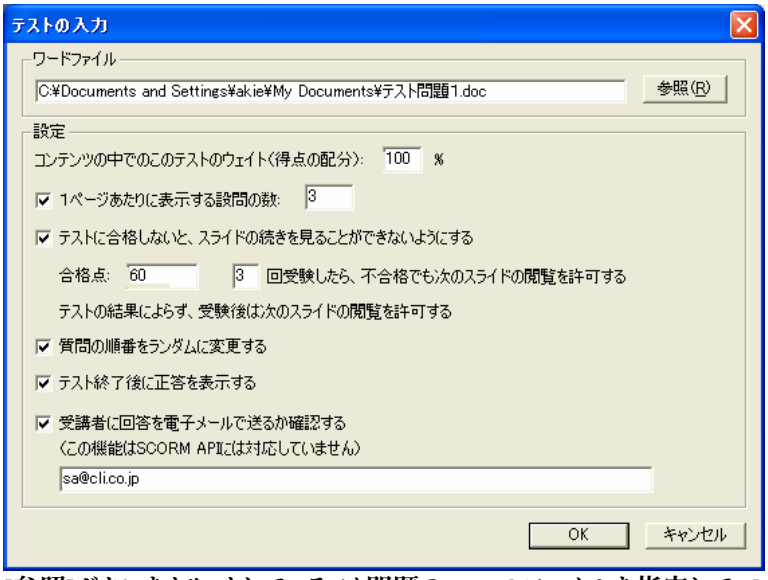
テスト機能は、SCORM での LMS との連携はできません。
LMS でテストを利用される場合には、各 LMS のテスト機能をご利用ください。

テストの作成手順

1. テストタブを選択します。
2. 作成ボタンをクリックします。テストの基本フォームの作成が表示されます。
（図はテストの種類などの設定を行った後の画面です。）
過去に作成したテストを利用する場合（Word ファイ

ルが残っている場合）には、手順 12 からの作業をおこないます。

3. 設問の[追加]ボタンをクリックして、設問を追加します。
4. 追加した設問の種類を「択一問題」「複数選択」「正誤(Yes/No)問題」「自由記入」の4種類から選びます。
5. 「択一問題」「複数選択」の問題の場合は、選択肢の数を指定します。
6. 問題の配点を設定します。
7. 設問をさらに追加する場合は、手順3からの手順を繰り返します。
8. 設問を削除するには、削除する設問を選択して、設問の[削除]ボタンをクリックします。
9. 設問の順番を変更するには、移動する設問を選択して、[上へ移動][下へ移動]をクリックします。
10. 以上の設定後、OK ボタンをクリックすると Word が自動的に起動します。（これ以降は設問の種類や順番、選択肢の数を変更することはできません。
11. Word ファイルの各項目を、Word ファイルに書かれている指示に従って埋めていきます。このとき、灰色の項目は絶対に変更しないでください。一部空行などがありますがこれらを変更すると、正常な問題として読み込まれなくなります。Word ファイルなので、図や数式・グラフなどを問題や選択肢に使うことができます。図や数式・グラフの挿入方法は Word に関する書籍などを参照ください。修正後、Word ファイルを任意のファイル名で保存します。
12. 読み込みボタンをクリックします。

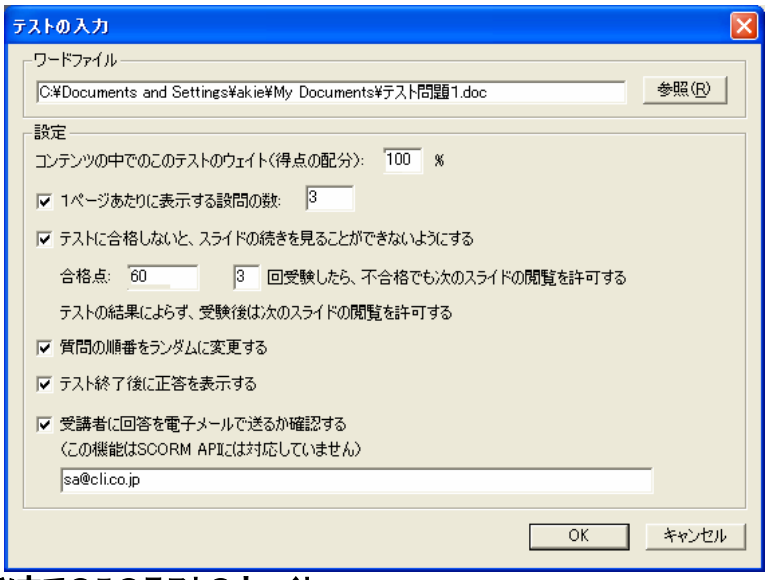


13. [参照]ボタンをクリックして、テスト問題の Word ファイルを指定して、[OK]をクリックします。
14. タイムライン上にテストマーカが表示されたことを確認してください。必要に応じてマーカの位置を移動して、テストの表示のタイミングを変更してください。

※ テスト項目横の合格点は、コンテンツ中の各テストの得点×ウェイトの総合計が、この得点をクリアしている場合に、コンテンツの学習を完了とみなします。ただし、この結果は SCORM API で LMS には配信されません。

※ テストを作る際に、配点の合計は100点にならなくてもかまいません。

テスト読み込み時の各設定の説明



■コンテンツ中でのこのテストのウェイト

一つのコンテンツ中に、複数のテストを作成した場合に、各テストの得点の配分を設定します。この配分の合計点が、コンテンツ全体の合格点として扱われます。

■1ページあたりに表示する設問の数

一つの画面に表示される設問の数を指定します。設問の数がこの数値より多い場合には、複数ページに問題が表示されます。

■テストに合格しないとスライドの続きを見ることができないようにする

各テストの合格点に達していない場合は続きのスライドへのアクセスができないように設定します。合格すると続きのスライドの再生が可能になります。

■質問の順番をランダムに変更する

設問および選択肢の順番を並び替えて、何度もテストを受けるうちに「何番目の選択肢が正答」のような覚え方をさせないようにします。

■テスト終了後に正答を表示する

テスト終了後に正答を表示して、答えあわせをさせます。

■受講者に回答を電子メールで送るか確認する

このテスト機能では、回答および結果を講師側が知るすべがありません。そのため、テストの結果をメールで送信するようにします。メールの送信には、Outlook/Outlook Express がインストールされ、設定されている必要があります。その他のメールソフトが通常のメールソフトの場合、この機能は使用できません。

この機能で送信される回答は以下のような形式になります。

```
件名：StreamAuthor テスト結果 -英語（第１回目）の確認テスト

Header_AuthorMail=student@client.jp
Message=
これは StreamAuthor のテストの結果です。 -

テストの表題: 英語（第１回目）の確認テスト
受講者: student@client.jp


問題数：4
正答数：2
誤答数：2
総得点：20
結果：合格
```

テスト機能の注意

Stream Author のテスト機能には、学習者が各問題をどのように間違えたかを管理者に通知する機能はありません。このような、綿密な学習効果の測定を行う必要がある場合には、LMS などのシステムとの連携が必要になります。
Stream Author のテスト機能はむしろ学習者自身が、自分がどこまで理解しているかを確認したり、講義中に学生を指名し回答させることによって集中力を持続させたりするなどの使い方を想定しています。

サブスライド　　－　スライドを2つにするには？

1. サブスライドタブを選択します。
2. [スライドの読み込み]ボタンをクリックします。
3. サブスライドとして利用するスライドファイルを選択します。ライブラリにスライドが追加されます。
4. ライブラリのスライドを、タイムラインの任意の位置にドラッグアンドドロップで配置します。

※ サブスライドには適用ボタンはありません。
※ コンテンツを再生しながら、スライドをダブルクリックすると、再生がその場で停止するのでご注意ください。

ウォーターマーク　　- 動画にロゴマークを挿入するには？

動画の二次利用の防止や、コンテンツの著作権を明示するために、動画に小さな画像（ロゴマークなど）を貼りこむことができます。

1. タイムラインの動画を右クリックしてメニューから[ウォーターマーク]を選択するか、[編集]メニューのウォーターマークを選択します。[31]
2. [参照]ボタンをクリックしてウォーターマークに使用する静止画(GIF/JPEG)を選択します。
3. 画面左の映像に、ウォーターマークが配置されます。大きさや位置を変更してください。（読み込んだ時点では縦横のサイズが正しく表示されない場合があります）
4. 必要に応じて透明度を変更します。

[31] 動画をタイムラインに配置していないと、ウォーターマーク機能は利用できません。

5. ウォーターマークを削除する場合は、[ウォーターマークの解除]ボタンをクリックします。

※ 体験版・評価版ではウォーターマーク機能は利用できません。

※ ウォーターマークに利用できるのは静止画だけで、動画(GIF アニメーションを含む)にすることはできません。

※ ウォーターマークはコンテンツの最初から最後までひとつだけ適用されます。途中で消したり変更したりすることはできません。

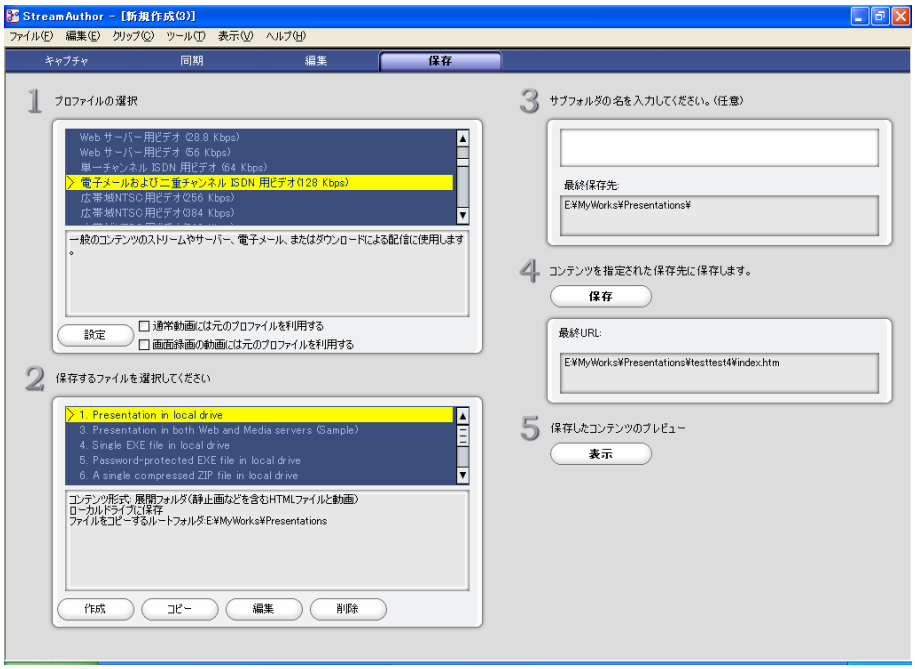
BGM - BGM を追加するには？

1. タイムラインの動画を右クリックしてメニューから[BGM]を選択するか、[編集]メニューの[BGM]を選択します。

2. [参照]ボタンをクリックして BGM に使用する音声ファイルを選択します。
3. 必要に応じて音量を調整します。
4. BGM を削除する場合は、[BGM の解除]ボタンをクリックします。

※ BGM はコンテンツの最初から最後までひとつだけ適用されます。

保存



プロファイルの選択 (動画の品質を変更するには？)

適切なプロファイルを選択します。プロファイルの選択の基準は、後章の「プロファイルについて」を参照してください。
プロファイルを自分で設定する場合は、[設定]ボタンをクリックするとプロファイルエディタが起動します。プロファイルエディタの詳細は、後章の「プロファイルについて」を参照してください。
[通常動画には元のプロファイルを使用する][画面録画の動画には元のプロファイルを使用する]にチェックを入れると、それぞれ素材動画のプロファイルと同じプロファイルで作業を行います。また、動画一切編集 (カット・分割) されていない場合は再変換を行わないため、保存する時間が短縮できます。
[通常動画～]は、動画が WMV 以外の場合は表示されません。
[画面録画～]は、画面録画で作成された映像がタイムラインに配置されていない場合には表示されません。

保存先の選択

保存先を指定してください。
StreamAuthor では、保存の時間を短縮するために、保存先をあらかじめ設定しておくことによって、ワンクリックで保存できるように設計されています。[32]

保存形式の説明

展開フォルダ	コンテンツを HTML[33]と動画ファイルの形式で保存します。
実行形式(EXE 形式)	単一の EXE 形式のファイルで保存します。セキュリティコントロールを含む場合は、この形式を選択します。
圧縮形式(ZIP 形式)	展開フォルダを ZIP 形式で圧縮して保存します。

保存先の説明

ローカルドライブ	StreamAuthor のインストールされた PC のハードディスクに保存します。
Web サーバ	HTML と動画の両方を Web サーバに保存します。
Windows Media サーバと Web サーバ	動画と HTML をそれぞれ Windows Media サーバと Web サーバに保存します。
CTMS サーバ	CyberLink Training Management System に登録します。 (日本では本システムは販売しておりませんので、選択しないでください。)

※ リモートサーバ (Web サーバおよび Windows Media サーバ) への保存は、FTP もしくは NetBIOS (ファイル共有) を用いて行います。そのため、各ドキュメントフォルダを FTP もしくは NetBIOS でアップロードできるように設定しておく必要があります。

サブフォルダの指定

展開フォルダ形式で保存する場合、保存するサブフォルダを指定します。指定・変更しなかった場合には、本来の Web コンテンツや直前に保存した StreamAuthor コンテンツを上書きしてしまう場合があります。

保存／再生

[保存]ボタンをクリックしてください。コンテンツが保存されます。実行形式・圧縮形式の場合は、保存先が確認されます。
保存完了後、コンテンツをテスト再生するか確認されますので、再生する場合には[はい]をクリックしてください。いったん再生した後でも、[再生]ボタンをクリックすることによって、テスト再生することができます。

[32]必要に応じてサブフォルダを指定する場合があります。
[33] それに関連する JavaScript や CSS ファイル、静止画像ファイルなどを含む

画面録画

画面録画の起動

フルスクリーンモードから

1. フルスクリーンモードでプレゼンテーションの記録状態で、[画面録画]ボタンをクリックします。
2. 画面録画ツールが起動します。

タイムラインモード（キャプチャ作業）から

1. キャプチャ作業で、キャプチャ作業を選択します。
2. [画面録画]ボタンをクリックします。

※ DV カメラを接続した状態で、音声デバイスを DV カメラのマイクを選択した状態で、画面録画ボタンを選択すると、音声デバイスの変更を求められます。

画面録画ツールのみ起動

1. Window OS のプログラムメニューより、[CyberLink StreamAuthor 3]中の[Screen Capture]を選択します。

録画の準備・設定

準備を行うには？

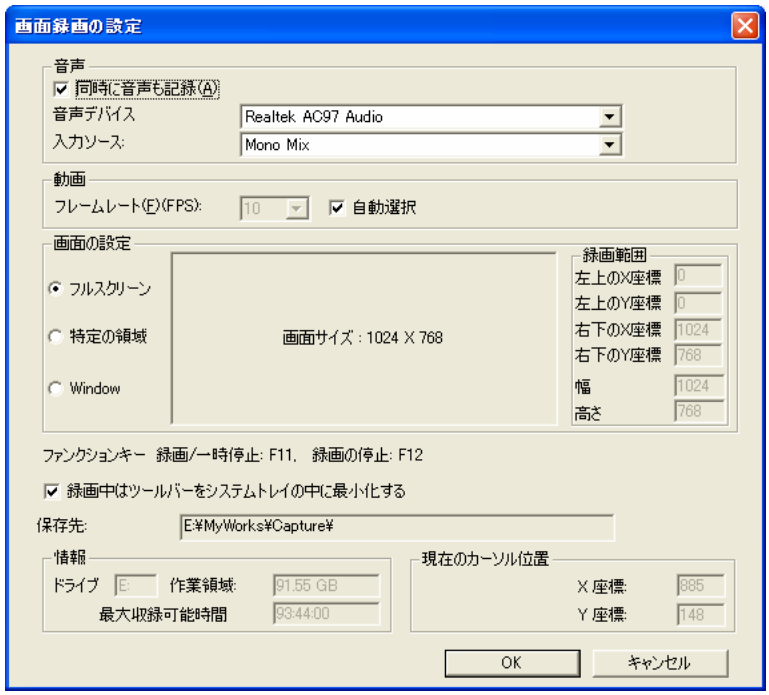
画面録画を起動すると画面録画ツールバーが表示されます。

設定を行うには？

1. 設定ボタンをクリックします。

図 30 設定ボタン

2. 以下の設定画面が表示されます。



3. 各項目の内容は以下のとおりです。

【音声】
通常、画面録画と同時にマイクからの音声も録音します。この音声の録音を行うかどうか、また行う場合の音声デバイスを指定できます。
【動画】
フレームレート（1秒間にコマ録画するか）を指定できます。フレームレートの値を大きくすると、スムーズに映像はスムーズに再生されますが、その分 PC に大きな負荷がかかるため、アプリケーションの処理速度が遅くなる場合があります。
【画面の設定】
録画する範囲を指定します。デフォルトは全画面を録画します。
【録画中はツールバーをシステムトレイの中に最小化する】
画面録画ツールバーを、録画中は OS 右下のシステムトレイに入れて最小化します。システムトレイ中のアイコンをクリックするとメニューが表示されます。

録画の開始

フルスクリーンモードから、画面録画に切り替えた場合、一時停止状態になっています。
[録画]ボタンをクリックして、画面録画を開始します。

ペン機能の利用

ペン機能を利用する場合は、各描画ボタンを押してから、画面上でマウスの左ボタンをクリックしながら移動させることによって画面上に書き込みすることができます。
ペン機能を利用している間は、OS や起動しているアプリケーションに対してキーボードからの入力やマウスでの操作を行うことはできません。
ペン機能動作中は、キーボード操作によって、描画図形の変更ができます。

<U>	直前の描画を取り消し(Undo)
<F>	自由曲線(Free)
<L>	直線(Line)

<R>	四角形(Rectangle)
<E>	円（楕円・ellipse）
<A>	矢印・→（Arrow）
<ESC>	描画作業の終了

消しゴムは、描いた内容の一部を消去するのではなく、描いた内容すべてをクリアしますので注意してください。
描画作業を終了しても、画面上の書き込みはそのまま残っています。

録画の停止

録画を一時的に止めるだけであれば、一時停止してください。
録画の[停止]ボタンをクリックするか、画面録画ツールバーを閉じると画面録画作業は終了し、フルスクリーンモードかタイムラインモードに戻ります。
録画の停止は<Ctrl>+<F12>、録画の一時停止は<Ctrl>+<F11>のキーボード操作で行うこともできます。
フルスクリーンモードに戻った場合には、スライドの記録が一時停止になっていますので、必ず録画を開始するようにご注意ください。

画面録画の制限

※ 画面録画機能で作成されるファイルは AVI 形式で記録されます。StreamAuthor コンテンツの一部として使用した場合には、保存時に WMV 形式として変換されて利用されます。
※ 中間ファイルの AVI 形式は特殊な Codec を用いているため、StreamAuthor 以外のアプリケーションでの再生・編集はサポートしておりません。
※ 画面録画機能は、DirectShow フィルタを利用するため、PowerDVD や Windows Media Player などの動画再生・編集ソフト、3D ソフト、ゲームなどの記録はできない場合があります。フルスクリーンモードで利用する場合は、記録するアプリケーションが録画できるか、あらかじめテストするようにしてください。
※ 画面録画機能は、非常に多くの PC リソースを消費するため、録画中のアプリケーションの動作が遅くなる場合があります。
※ 画面が非常に早く切り替わるような場合、例えばマウスカーソルをすばやく移動した場合などは、その動きをスムーズに記録できるとは限りません。
※ 画面録画でそのほかのアプリケーションを記録する場合、著作権に抵触する場合があります。必ず各アプリケーションの使用許諾契約などをご確認のうえ、記録するようお願いいたします。

プロジェクト

プロジェクトとは？

プロジェクトは、プロジェクトファイルと動画やスライドなどの素材で構成されたコンテンツの設計図と材料に当たるものです。
Word/や Excel では、一つのファイルの中にデータと各種設定が含まれています。
StreamAuthor は、様々な種類のファイルの組み合わせでコンテンツを作成していきますので、これらをすべて一つのファイルにまとめることができません。プロジェクトはこれら複数のファイルを管理することによって、コンテンツの設計図としているのです。
このプロジェクトを保存しておくことによって、コンテンツを修正・変更することができます。
プロジェクトは、設計図に当たるプロジェクトファイル(*.stp ファイル)を中心に構成されています。
フルスクリーンモードで収録が終了すると、プロジェクトファイルを保存するかどうか確認されます。プロジェクトファイルさえあれば、トラブルが起きても、プロジェクトファイルを保存した時点までの作業が残っていることになるので必ず保存してください。

フルスクリーンモードを高速に開始するには？

複数のプレゼンテーションを連続して行う場合に、フルスクリーンモードの起動までに時間がかかります。
この時間を短縮するには、プレゼンテーション全体の前に、使用するスライドを使ってプロジェクトを作成しておきます。そして、各プレゼンテーションの時に使用するプロジェクトを読み込むことによって大幅に起動時間を短縮することができます。
ただし、以下の点に注意してください。

※ プロジェクト作成時にカメラなどのキャプチャデバイスは本番と同じ状態にして作成してください。プロジェクトには、キャプチャデバイスの設定も含まれているため、これらの環境が変わると正しいデバイスが選択されない場合があります。

※ プレゼンテーションの本番開始後に、スライドに変更があっても差し替えることができません。これはプロジェクト作成時にスライドを HTML に変換して別に保存しているため、元のスライドを変更してもプロジェクトには更新されないことになります。

フルスクリーンモードで収録し、タイムラインモードで再編集するには？

フルスクリーンモードで収録したコンテンツを、タイムラインモードを使ってより詳細に編集する場合には、プロジェクトの変換を行います。プロジェクトの変換は、フルスクリーンモード起動時に、[ファイル]→[タイムラインモードのプロジェクトに変換]を選択します。

タイムラインモードのプロジェクトをフルスクリーンモードに変更することはできません。
タイムラインモードに変更後、タイムラインのプロジェクトを別の名前で保存しておけば、それぞれフルスクリーンモード・タイムラインモードで作業を行うことができます。

プロジェクトを紛失したコンテンツの再編集

プロジェクトファイルを紛失したコンテンツを再編集する必要がある場合、コンテンツを直接読み込むことができます。
[ファイル]→[コンテンツを直接再編集]を選択して、読み込むコンテンツのルートファイル（通常は index.htm か index.html）を指定します。
その後はタイムラインモードで編集を行うことができます。
この機能は StreamAuthor3,StreamAuthor2 のコンテンツを読み込むことができますが、StreamAuthor1（旺文社 DI エディションを含む）のコンテンツを再編集することはできません。

注意事項

プロジェクト無しで再編集を行う場合は、動画の元素材が失われているため、コンテンツ中の動画を元素材として使用します。そのため、動画のカット（削除）された部分を復旧させることはできません。また動画編集を行うと再エンコードを行うため、動画が劣化する場合があります。

プロジェクトの保存を高速化するには？

複数のプレゼンテーションを連続して行う場合に、各プレゼンテーション終了時にプロジェクトを保存していると、動画データのコピーに時間がかかるため、保存そのものの時間もかかる場合があります。こういった場合、あらかじめプロジェクトに素材をコピーしないように設定しておくことによって、この時間を短縮することができます。
[ツール]→[環境設定]→[全般]タグの[ソースファイルをプロジェクトディレクトリにコピーする]チェックを解除してください。こうすることによって、プロジェクトに動画などをコピーしなくなります。
しかし、この設定をすると、プロジェクトフォルダだけを移動して再編集を行おうとすると元の動画ファイルを見失うことになります。そのため、プレゼンテーション終了後、各プロジェクトを、再度動画を含んだ形で作り直すことをお勧めします。

プロファイル

プロファイルとは？(必読)

プロファイルは、動画(音声)の品質を決める様々なパラメータ(値)の集合です。よく利用されるプロファイルは、インストール時に作成されますので、それを利用してください。特殊なプロファイルを利用する場合には、新たに作成することもできます。

適切なプロファイルを選択するには？

プロファイルで、もっとも重要なパラメータ(値)は、ビットレートです。ビットレートは、1秒当たりの動画のデータ量を意味しており、一般的に値が大きいほうが画質はよくなります。ビットレートは、通常 bps (kbps = 1000bps, Mbps = 1000kbps)単位で表現されます。デフォルトのプロファイルの場合は、プロファイル名の最後にビットレートが記載されています。
高ビットレートになるほど画質はよくなりますが、あまり高いビットレートを選択すると、録画するにも再生するにもコンピュータリソースを消費します。つまり古いパソコンなどでは再生できない場合があります。また、高ビットレートのデータはそれだけ大量のデータを流すことになるのでネットワークに多大な負荷をかけることにもなりかねません。
実際には、高ビットレートにしても極端に画質がよくなるのではなく、ビットレートが高くなると画質よりも動画の追随性が改善、すなわち(ダンスシーンなどの)早い動きの映像がスムーズに再生できるようになります。StreamAuthor では講義などの比較的動きの少ない映像が主になると思われるので、高ビットレートにしても劇的に映像品質が向上するわけではありません。
ビットレートの選択は、再生環境やネットワーク環境なども考慮して最終的に決定する必要がありますが、大まかなガイドラインとしては以下のとおりです。

- 人が話しているということが認識できる程度　64kbps
- 話し手の表情がある程度読める程度　128kbps
- 高画質を求める　384kbps

これ以上のビットレートを選択すると、再生環境やネットワーク環境によってはスムーズに再生できない場合があります。

マルチビットレート

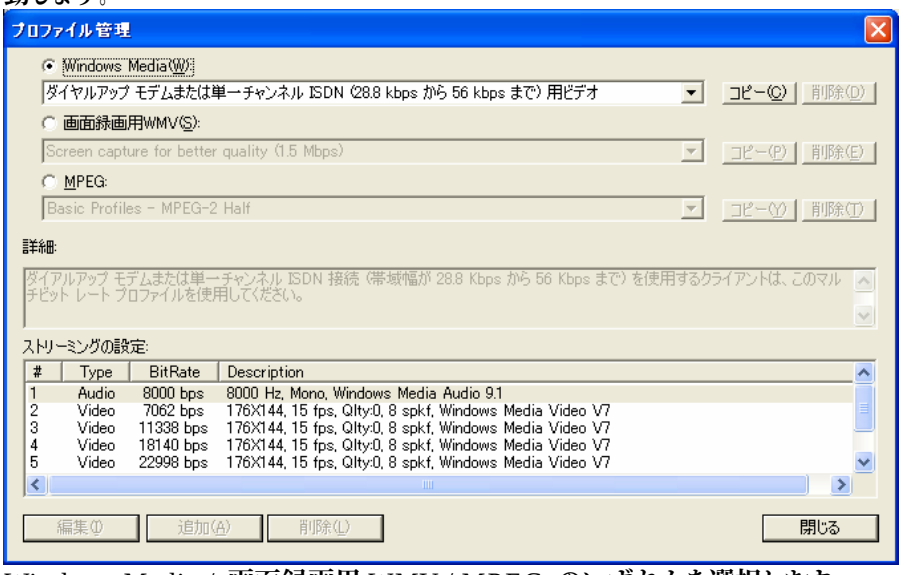
マルチビットレートは、一つの動画(音声)ファイルに複数のプロファイルが存在するものを言います。マルチビットレートの利点は、サーバとクライアント間のネットワーク速度を感知して、その速度に合わせたストリームを配信することにあります。つまり、ネットワーク速度に十分に

余裕がある場合にはもっとも高品質な動画を転送しますが、ネットワーク速度が不十分な場合はネットワーク速度に見合った動画を転送します動画の再生中にネットワーク速度が変化した場合には、それに合わせて配送する動画を変更します。
マルチビットレートは、動画をマルチビットレート形式にするだけではなく、配信サーバもストリーミングサーバ（Windows Media Service）を使用しなくてはなりません。Web(HTTP)サーバでマルチビットレートの動画を配信すると、全品質の動画を送信するため、むしろ大量のデータを送信することになります。

新しいプロファイルを作成するには？

プロファイルを作成する場合は、**必ず既存のプロファイルをコピーして修正する**という手順をとります。まったく白紙から作成することはできません。

1. メニューの[ツール]→[プロファイルの管理]を選択します。プロファイル管理エディタが起動します。



2. Windows Media / 画面録画用 WMV / MPEG のいずれかを選択します。
   Windows Media は通常のカメラからの動画のプロファイルです。
   画面録画用 WMV は画面録画時の動画のプロファイルです。
   MPEG は、タイムラインモードのキャプチャ作業で使用できる MPEG 形式で中間ファイルを作成するときに使用します。最終成果物が MPEG で保存できるわけではありません。
3. 編集するプロファイルに一番近いプロファイル、もしくはすでに作成したプロファイルを選択してください。（すでに作成したプロファイルを修正する場合は、この後手順6まで移動してください。）
4. [コピー]ボタンをクリックします。プロファイル名を指定してください。
5. コピーしたプロファイルが選択されていることを確認してください。
6. 「ストリーミングの設定」の Video（複数ある場合は任意の一つ）を選択して、[編集]ボタンをクリックします。

7. 各項目の値を修正して、[OK]ボタンをクリックします。各項目の詳細は後節「プロファイルの各パラメータ(値)の解説」を参照してください。
8. 同様に「ストリーミングの設定」の Audio を選択して、音声を編集します。
9. 修正後、[閉じる]ボタンをクリックします。

※ 一つのプロファイルに、Video タイプは複数作成することができます。複数作成した場合は、マルチビットレートのプロファイルになります。複数作成する場合は、[追加]ボタンをクリックしてください。Video タイプが無い場合は、音声のみのプロファイル(WMA のプロファイル)となります。

※ Audio は1つしか作成することができません。(＝音声のマルチビットレートはできません。)また削除することもできません。ただし、ステレオ・モノラルの変更は1トラック中で変更が可能です。

※ 作成したプロファイルを再編集・削除することはできますが、デフォルトのプロファイルは削除・編集することはできません。

プロファイルの各パラメータ(値)の解説

Windows Media / 画面録画用 WMV (Video)

Codec	Codec は動画/音声の圧縮・伸長の形式です。Codec は各クライアントにも該当する Codec が入っていないと再生できないことになります。通常は Windows Media Video V7 を選択してください。
画面サイズ	画面のサイズをピクセル値で指定します。ただし、StreamAuthor のコンテンツ上では縮小・拡大されて表示されますので、StreamAuthor のコンテンツ上でこのサイズでの表示を保障するものではありません。画面録画用プロファイルでは、画面サイズを指定することはできません。

ビットレート	動画の1秒当たりのデータ量 (bit) を入力します。一般的に、この値が大きくなれば画質はよくなりますが、クライアント PC のスペックやネットワーク速度によっては再生できない場合があります。
フレームレート	1秒あたりのコマ数です。フレームレートが大きいと動きはスムーズになりますが、その分データ量が多くなるので画質が劣化する場合があります。
画質	0の場合は画質を重視しますが、動きが早い映像の場合はコマ落ちする可能性が高くなります。 100の場合は、画質を犠牲にしても、極力コマ落ちしないようになります。
キーフレーム	動画の圧縮の仕組みは、キーになる映像を元にどれだけ変化したか記録して行きます。キーになる映像との距離 (時間) が長くなると、誤差が大きくなり画質の劣化が大きくなります。キーフレームはそのキーになる映像を何秒ごとに挿入するかを意味します。
バッファ	ネットワークから送信されるデータが一時的に滞った場合でも再生が途切れないようにあらかじめ数秒分の映像をクライアントは溜め込んで置きます。この秒数を指定します。通常は、-1 を指定して、クライアントに自動的に判断させることをお勧めします。

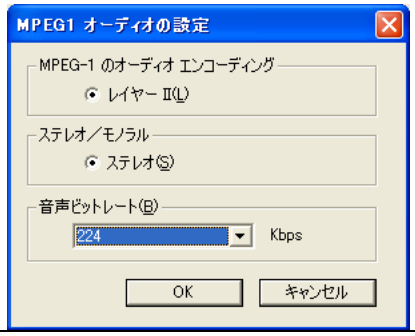
Windows Media / 画面録画用 WMV （Audio）

Codec	通常は Windows Media Audio 9 もしくは 9.1 を選択してください。
形式	形式は、以下の項目を組み合わせたものです。新たな形式を作成することはできません。
ビットレート	動画同様、1秒間の音声のデータ量を意味します。一般的に数値が大きいほど音質はよくなりますが、データ量も多くなります。
サンプリング周波数	音声をデジタル化する場合に、1秒間に何回音を計測するかを意味します。数値が大きいほど音質はよくなります。一般に 44kHz が音楽 CD の品質と言われますが、周波数が高くなるとデータ量は大きくなります。なお、22kHz が FM ラジオなみ、11kHz が電話なみの音質と言われますが、音質はビットレートによっても左右されます。
チャンネル	モノラルかステレオかを選択できます。
CBR/VBR	CBR は、常に一定のビットレートに圧縮をかけます。VBR は音が一定 (無音) の部分のデータ圧縮量を大きくし、音がある部分のデータ圧縮量を小さくして音のある部分の音質を上げるようにします。 VBR は PC に負荷をかけますので、CBR を選択してください。

MPEG (Video)

形式	Average(MPEG-1)/Excellent(MPEG-2)/VCD から選択します。
画面サイズ	動画の縦横のサイズを選択します。この一覧に無いサイズは選択できません。
映像ビットレート	動画の品質を決定します。
速度／品質インジケータ	速度を優先した場合は、画質を劣化させて動画がスムーズに動くようにします。画質優先の場合、画質はよくなりますが PC の処理速度によってはコマ落ちする可能性が高くなります。
GOP フォーマット	MPEG は、十数枚のフレームを一つのグループ(GOP = Group of Pictures)という単位で圧縮します。GOP の先頭は I フレームと呼ばれ、基本となる静止画（フレーム）となります。P フレームは I フレームとの差を元に映像を計算します。B フレームは前後のフレームとの差で映像を計算します。 この I/P/B フレームの構造を決定します。

MPEG (Audio)



音声ビットレート	音声部分のビットレートを選択します。選択肢以外のビットレートを作成することはできません。

※オーディオエンコーディング、ステレオ／モノラルは選択できません。

ビットレート設定時の注意事項

1. ビットレートは、動画と音声のビットレートを足す必要があることに注意してください。ISDN(64kbps)の回線を想定して、映像のビットレートを 64kbps にすると音声を配信する余裕がなくなります。
2. 動画･音声のほかにも HTML（StreamAuthor コンテンツのスライド部分）のデータや、そのほかの制御コマンドがやり取りされるため、動画･音声トラックをネットワークの帯域

幅いっぱいに取ることはコマ落ちなどの原因になります。動画･音声ﾄﾗｯｸのﾋﾞｯﾄﾚｰﾄの和がﾈｯﾄﾜｰｸ帯域より少なくとも1～2割程度小さくする必要があります。

3. プロファイル（ﾋﾞｯﾄﾚｰﾄ）を選択する際に、よくｸﾗｲｱﾝﾄの環境を元に計算します。例えば、一番貧弱な環境が ISDN(64kbps)と想定して 64kbps のプロファイルを選択するなどです。ｸﾗｲｱﾝﾄの環境が貧弱な場合にはこれでもいいのですが、最近は ADSL や FTTH などの高速回線が家庭にも引かれるようになりました。そのため、ﾋﾞｯﾄﾚｰﾄの高いプロファイルを使用する場合がありますが、ｽﾄﾘｰﾐﾝｸﾞｻｰﾊﾞやｲﾝﾀｰﾈｯﾄ回線の帯域幅も考慮して適切なﾋﾞｯﾄﾚｰﾄを選択する必要があります。

保存先の設定

StreamAuthor では、出来上がったコンテンツをできるだけ簡単に保存することが大切と考えています。例えば、サーバにコンテンツを保存する際に、毎回サーバ名・ユーザ名・パスワードなどを入力すると作業が煩雑になる上に、パスワードを忘れたなどの問題が起こりえます。StreamAuthor ではあらかじめ、サーバ名やパスワードなどを設定しておくことによって、簡単にコンテンツを保存・アップロードできるようになっています。

保存方法

保存形式

展開フォルダ	コンテンツを HTML[34]と動画ファイルの形式で保存します。
実行形式(EXE 形式)	単一の EXE 形式のファイルで保存します。セキュリティコントロールを含む場合は、この形式を選択します。
圧縮形式(ZIP 形式)	展開フォルダを ZIP 形式で圧縮して保存します。

保存先

ローカルドライブ	StreamAuthor のインストールされた PC のハードディスクに保存します。
Web サーバ	HTML と動画の両方を Web サーバに保存します。
Windows Media サーバと Web サーバ	動画と HTML をそれぞれ Windows Media サーバと Web サーバに保存します。
CTMS サーバ	CyberLink Training Management System に登録します。（日本では本システムは販売しておりませんので、選択しないでください。）

保存プロトコル

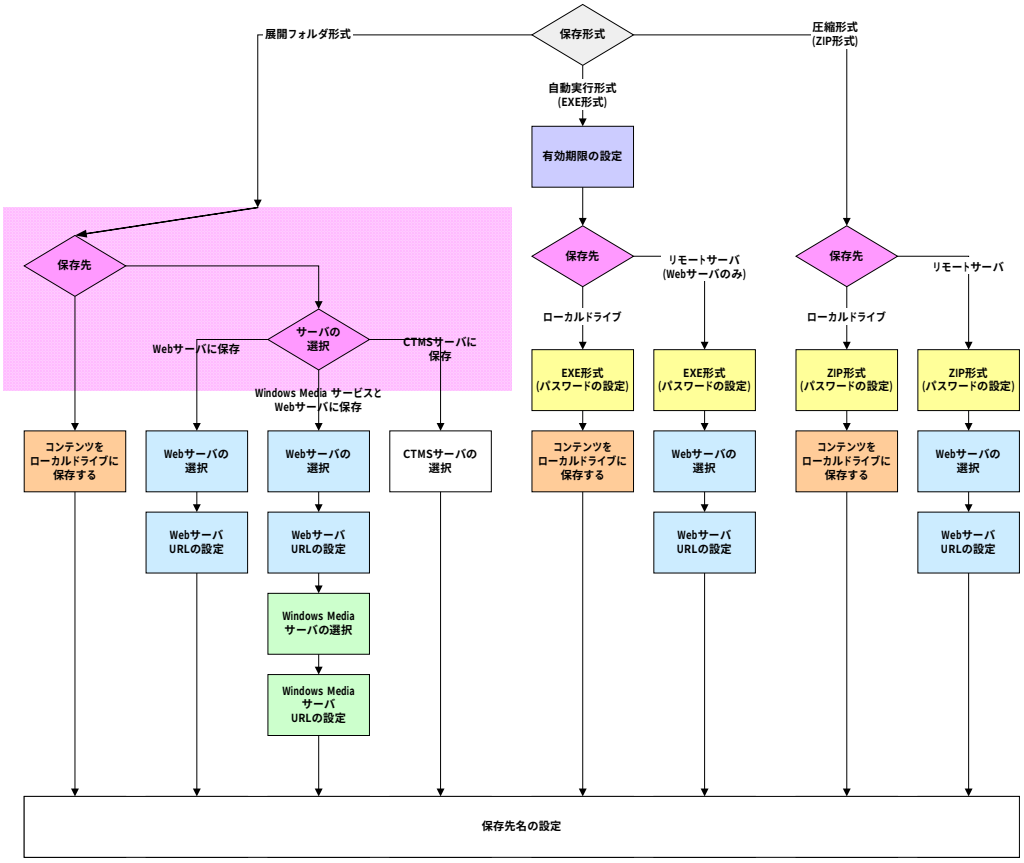
FTP	FTP を経由してサーバにコンテンツをアップロードします。サーバとの間にルータがある場合は FTP を用いることを推奨します。FTP を用いる場合は、サーバ側に FTP サーバを起動し、コンテンツを置くフォルダを FTP でもアップロードできるように設定しておく必要があります。
NetBIOS	Windows サーバへのファイル共有（マイネットワークやネットワークコンピュータ）でコンテンツを保存する方法です。サーバが組織外にある場合（レンタルサーバなどを利用している場合）などは利用できません。

[34] それに関連する JavaScript や CSS ファイル、静止画像ファイルなどを含む

	NetBIOS で保存するには、あらかじめ StreamAuthor のインストールされた PC からサーバへアクセスできるよう設定しておく必要があります。 サーバが Linux など UNIX 系 OS を用いている場合は、Samba などによってファイル共有をすることができます。

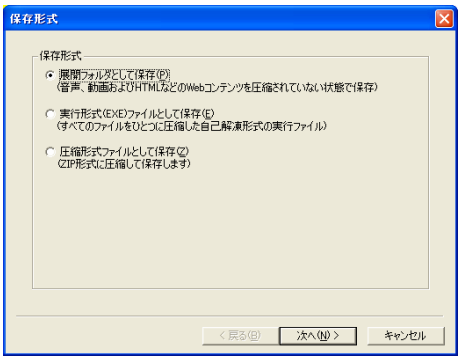
※ FTP/NetBIOS に関するサーバの設定は、ここでは説明しておりません。これらの説明はサーバの設定に関する書籍などを参照してください。

保存先設定の流れ図



各パラメータの詳細

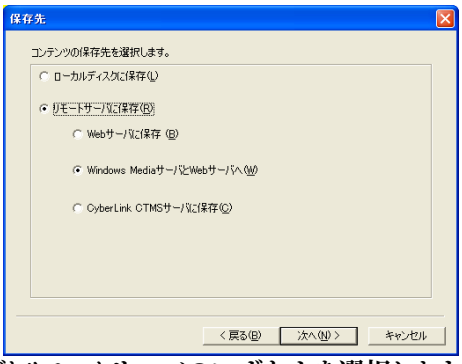
保存形式



保存形式を、以下の項目から選択します。

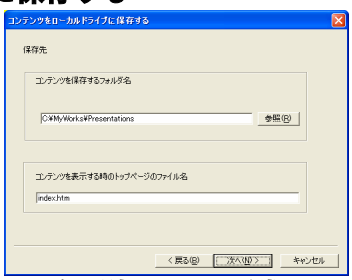
- 展開フォルダ
- 実行形式(EXE)
- 圧縮形式(ZIP)

保存先



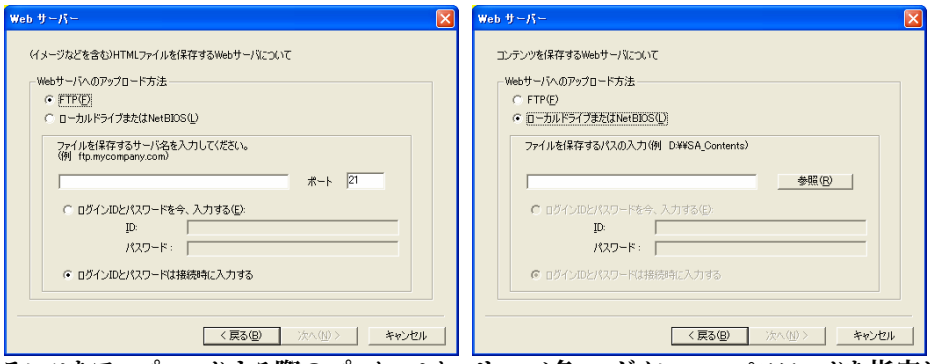
保存先をローカルドライブとリモートサーバのいずれかを選択します。
展開フォルダを選択してリモートサーバを選択した場合は、さらに「Web サーバに保存」「Windows Media サーバと Web サーバに保存」「CTMS サーバに保存」のいずれかを選択します。
自動実行形式・圧縮形式の場合で、リモートサーバに保存する場合には、「Web サーバに保存」のみ選択できます。
「Web サーバに保存」を選択した場合はすべてのコンテンツを HTTP 経由で配信します。
「Windows Media サービスと Web サーバに保存」を選択すると、動画部分を Windows Media サービスで配信し、そのほかのスライド部分などを HTTP 経由で配信します。
Windows Media サービスと Web サーバが同じサーバ上で動作している場合でもこの項目を選択してください。
CyberLink CTMS サーバは日本では販売されていない LMS サーバです。選択しないでください。

コンテンツをローカルドライブに保存する



コンテンツを保存するルートフォルダを選択します。通常はさらにこの下にサブフォルダを指定することができます。
コンテンツを表示するためのファイル名を指定します。通常は index.htm か index.html にします。Index.html/index.htm は、サーバにコンテンツを配置した場合に、ファイル名を省略した場合にこのファイルを表示するよう設定されていることが多いためです。

Web サーバの選択



コンテンツをアップロードする際のプロトコルと、サーバ名・ログイン ID・パスワードを指定します。

【FTP を選択した場合】

FTP は、通常外部ネットワーク上に位置するサーバにアップロードする際に使用するプロトコルです。サーバ側で FTP 機能を動作させておく必要があります。

ファイルを保存するサーバ名を指定してください。サーバ名は、「ftp.company.com」のようにサーバ名だけ指定するか、「ftp.company.com/myfolder」のようにフォルダ名をつけて指定することもできます。URL 表記の「ftp://」はつけないでください。

ポートは通常 21 のままにしてください。

ログイン ID とパスワードをこの時点で指定すると、保存時にログイン ID とパスワードを指定する必要がありません。

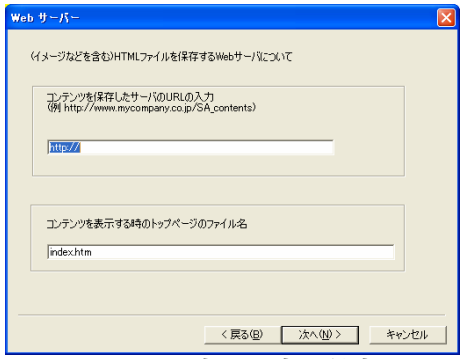
【NetBIOS を選択した場合】

NetBIOS は、Windows パソコンでマイネットワークやネットワークコンピュータからアクセスする、いわゆるファイル共有を用いてアップロードをします。NetBIOS は社内・学内ネットワークではアクセスできますが、外部ネットワークには通信できません。Windows 系サーバを Web サーバに利用する場合には OS がファイル共有の仕組みを持っていますのでファイル共有の設定をするだけで利用することができますが、UNIX 系のサーバを使用する場合は Samba などを使ってファイル共有をする必要があります。

ファイルを保存するサーバ名を指定してください。サーバ名は、「¥¥fileserver¥webfolder」のように UNC で指定するか、あらかじめ特定のドライブに共有しておき「D:¥websubfolder」のようにパス名で指定します。

ログイン ID とパスワードをこの時点で指定すると、保存時にログイン ID とパスワードを指定する必要がありません。

Web サーバ URL の設定

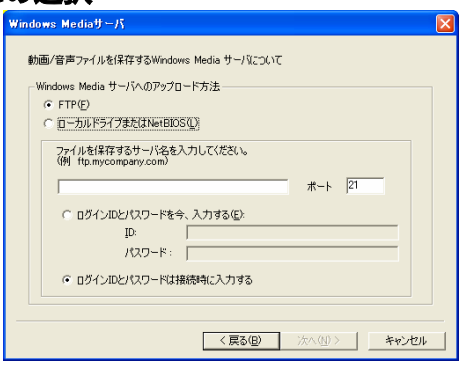


[コンテンツを保存したサーバの URL の入力]は、先に設定した Web サーバ (及びフォルダ名) にアクセスするための URL を指定します。

コンテンツを表示する時のトップページのファイル名は、コンテンツを再生するためにアクセスする HTML ファイル名を指定します。通常は、ファイル名を指定しても再生できるように

index.html や index.htm などのデフォルトファイルを指定します。

Windows Media サーバの選択



コンテンツをアップロードする際のプロトコルと、サーバ名・ログイン ID・パスワードを指定します。

【FTP を選択した場合】

FTP は、通常外部ネットワーク上に位置するサーバにアップロードする際に使用するプロトコルです。サーバ側で FTP 機能を動作させておく必要があります。

ファイルを保存するサーバ名を指定してください。サーバ名は、「ftp.company.com」のようにサーバ名だけ指定するか、「ftp.company.com/myfolder」のようにフォルダ名をつけて指定することもできます。URL 表記の「ftp://」はつけないでください。

ポートは通常 21 のままにしてください。

ログイン ID とパスワードをこの時点で指定すると、保存時にログイン ID とパスワードを指定する必要がありません。

【NetBIOS を選択した場合】

NetBIOS は、Windows パソコンでマイネットワークやネットワークコンピュータからアクセスする、いわゆるファイル共有を用いてアップロードをします。NetBIOS は社内・学内ネットワークではアクセスできますが、外部ネットワークには通信できません。Windows 系サーバを Web サーバに利用する場合には OS がファイル共有の仕組みを持っていますのでファイル共有の設定をするだけで利用することができますが、UNIX 系のサーバを使用する場合は Samba などを使ってファイル共有をする必要があります。

ファイルを保存するサーバ名を指定してください。サーバ名は、「¥¥fileserver¥webfolder」のように UNC で指定するか、あらかじめ特定のドライブに共有しておき「D:¥websubfolder」のようにパス名で指定します。

ログイン ID とパスワードをこの時点で指定すると、保存時にログイン ID とパスワードを指定する必要がありません。

Windows Media サーバ URL の設定

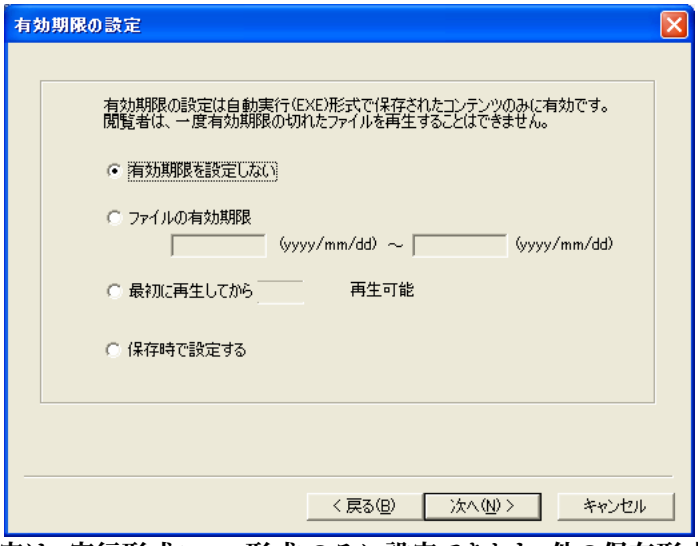
[コンテンツを保存したサーバの URL の入力]は、先に設定した Windows Media サービス(及びフォルダ名)にアクセスするための URL を指定します。

Windows Media サービスは、通常「mms://～」の URL で指定しますが、Windows Media サービスの設定によっては、http で送信する場合もあります。その場合には、「http://～」で指定します。

CTMS サーバの選択

CTMS サーバは、CyberLink Training Management System で、CyberLink が提供する LMS サーバです。本サーバは日本では販売されておりませんので、選択してはなりません。

有効期限の設定



有効期限の設定は、実行形式(EXE 形式)のみに設定できます。他の保存形式では利用できません。

【有効期限を設定しない】

有効期限を設定せずに、いつでもコンテンツの閲覧ができます。

【ファイルの有効期限】

コンテンツを閲覧できる期限を指定します。入力方法は、西暦／月／日（例：2005 年 1 月 23 日→2005/01/23）と入力します。

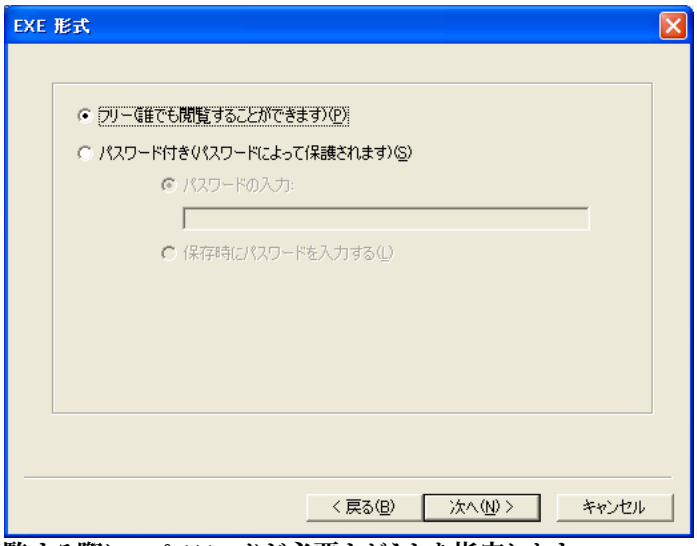
【最初に再生してから～】

コンテンツは、初めて再生してから指定期間の間何度でも再生することができますが、指定期間が経過すると再生できなくなります。また、一度再生したコンテンツを他のパソコンで再生しても有効期限は、最初のパソコンで再生した時から数えて何日経過したかがカウントされます。未再生のコンテンツを各パソコンにコピーされた場合には、各パソコンでコピーされた日から数えて期間が設定されます。

【保存時に設定する】

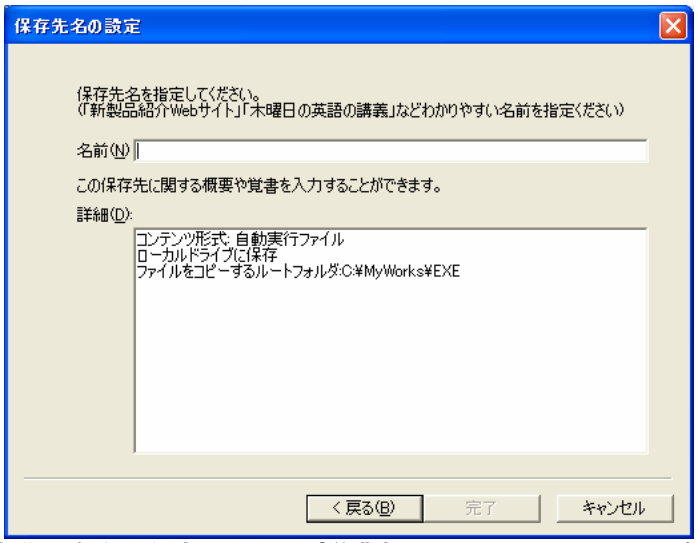
この時点で有効期限を設定しないで、コンテンツの保存時に有効期限を設定するかしないか、もしくは有効期限の種類を指定することができます。

パスワードの設定



コンテンツを閲覧する際に、パスワードが必要かどうかを指定します。
[保存時にパスワードを入力する]を選択すると、保存を行う際にパスワードを指定するよう求められます。
保存時にパスワードの要･不要を選択できるように設定することはできません。
パスワードは、実行形式(EXE)か圧縮形式(ZIP)のみ指定可能で、展開フォルダには指定することはできません。

保存先名の設定



保存先名は、自分で自由に設定できます。「営業部コンテンツサーバにアップロード」や「経済原論(木 I)」など、分かりやすい名前を設定してください。詳細には、この保存方法に関する覚書を記述することができます。

SCORM コンテンツとして保存するには？

StreamAuthor コンテンツは、展開フォルダ形式･圧縮形式(ZIP)で保存した場合は、SCORM 関連のファイルを自動的に付加してコンテンツを保存します。SCORM に関する設定をする必要はありません。
SCORM に関しての詳細は、別途各種文献を参照してください。また、SCORM 対応コンテ

ンツの LMS への登録方法は、各 LMS の説明書などを参照してください。

※ StreamAuthor2J では、SCORM 対応形式での保存は SCORM 付 ZIP 形式で保存するようになっていましたが、StreamAuthor3 では SCORM 対応形式で保存と指定する必要はなくなりました。

展開フォルダ形式で保存したコンテンツをサーバにアップロードするには？

展開フォルダ形式で保存した場合には、動画ファイルを同じ Web サーバより擬似ストリーミング（ダウンロード再生）するように設定されています。一旦ローカルドライブに展開フォルダ形式で保存したあと、ストリーミングサーバを用いて動画を配信する場合は、修正を行う必要があります。修正の手順は以下のとおりです。

1. 出来上がったコンテンツの Media フォルダ内の動画ファイルを全てストリーミングサーバに保存します。
2. ストリーミングサーバに保存した動画が、ストリーミング再生できるかどうかを確認します。確認する方法は、Windows Media Player を起動して、[ファイル]メニューの[URL を開く]を選択して、mms://streaming.yourcompany.co.jp/subfolder/index.wmv[35]のようにプロトコル・サーバ名を含むフルパスで再生する動画ファイルを入力します。
3. 出来上がったコンテンツ中の index.asx ファイルをメモ帳などで開きます。
4. <REF HREF=”./Media/index.wmv” />となっている行を探して、<REF HREF=mms://streaming.yourcompany.co.jp/subfolder/index.wmv />と修正してください。ファイル名 index.wmv は別の名前になっている場合があります。(index_0.wmv など)この場合には、このファイル名は修正しないように、 ./Media/となっている部分だけ修正してください。
5. index.asx ファイルを保存して、エディタを終了します。
6. 出来上がったコンテンツの Media フォルダ以外のファイル・フォルダ（修正した index.asx も含む）全てを Web サーバに保存します。

Web サーバだけで配信する場合の制限事項

StreamAuthor のコンテンツは、Web サーバだけで配信することも可能ですが、以下のような制限事項があります。

1. 目次をクリックしても、動画ファイルのダウンロードが完了するまでは、そのスライドおよび動画の位置に移動できない。
2. マルチビットレートには対応できない。マルチビットレートのファイルを利用することはできるが、その場合全帯域のデータを送信するため、ネットワークに負荷をかけることになる。

[35] この URL は例であり、この通り入力しても再生できません。mms は http の場合があります。streaming.yourcompany.co.jp はサーバに異なるため、適切なサーバ名を指定してください。Subfolder は、サーバの設定によって異なるため、適切なサブフォルダ名を指定してください。動画ファイル名は、保存した動画のうち一つを選択してください。通常は、index.wmv か index_0.wmv です。

キャプチャデバイスの設定

ビデオキャプチャデバイス･音声キャプチャデバイスに関する各種設定を StreamAuthor から行うことが可能です。

キャプチャデバイスツールの起動

フルスクリーンモード準備画面から

[デバイスの設定]ボタン（カメラ映像の下にあります）をクリックします。

フルスクリーンモード収録画面から

[デバイスの設定]ボタン（画面右下にあります）をクリックします。フルスクリーンモードの収録画面では、収録が一時停止中でないと[デバイスの設定]ボタンをクリックすることはできません。

タイムラインモード同期作業から

1. [カメラからの録画]ボタンをクリックして、録画可能状態にします。
2. [デバイスの設定]ボタン（[カメラからの録画]ボタンの右側に表示されます）をクリックします。

※ 録画中は、[デバイスの設定]ボタンをクリックすることはできません。変更する場合は、一時停止をクリックしてください。

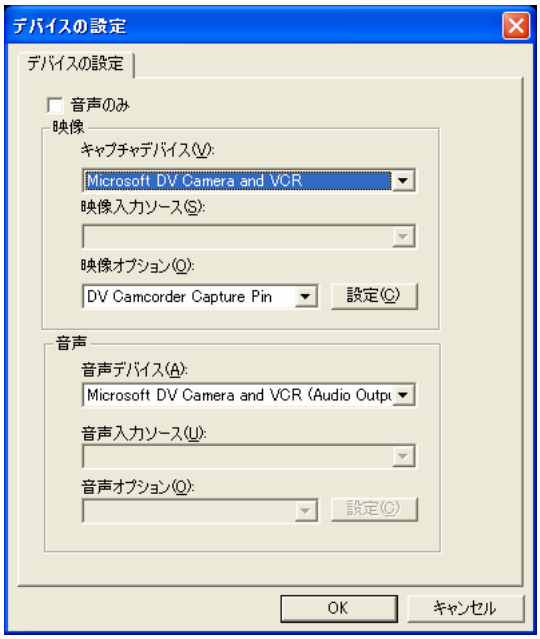
タイムラインモードキャプチャ作業から

1. 設定するデバイスを選択します。接続されていないデバイスを押すことはできません。
2. 画面上の[キャプチャデバイス]もしくは[音声デバイス]ボタンをクリックします。

※ キャプチャ作業からデバイスの設定を行う場合は、キャプチャデバイスと音声デバイスの画面が別になっており、他の設定画面と異なります。しかし、設定する内容や手順は同一ですので以降の手順はまとめて説明してあります。

※ 録画中は、各デバイスの設定ボタンをクリックすることはできません。変更する場合は、録画を停止してから作業を行ってください。

映像の調整



デバイスの設定画面は、タイムラインモードの収録作業以外に場合には映像･音声が一画面で表示されます。
キャプチャデバイスが接続されていてもキャプチャデバイスを使用しない場合には、[音声のみ]チェックボックスを選択します。

キャプチャデバイスの選択

キャプチャデバイスは、接続されているキャプチャ機器の一覧が表示されます。使用するキャプチャデバイスを選択してください。DV カメラを iLink で接続している場合には、「Microsoft DV Camera and VCR」と表示されます。それ以外のキャプチャ機器は機器名が表示されます。

映像入力ソースの選択

映像入力ソースは、キャプチャデバイスによっては選択することができない場合があります。またキャプチャ機器によって、選択肢が異なります。
たとえば、Aopen のビデオキャプチャボードの場合は、「Video Tuner[36]」「Video SVideo[37]」「Video Composite[38]」の3種類が選択できます。キャプチャ機器を選んでも画像が乱れたり、画面が青いままだったりする場合には映像入力ソースを選択しなおしてください。
表記などは、キャプチャデバイスによって異なります。詳細は、ビデオキャプチャカードなどの説明書をご覧ください。

映像の調整

映像オプションを選択し、[設定]ボタンを押すと映像の調整が可能です。
映像の調整で動画のサイズ[39]、色味や明るさなどの調整ができます。チューナーからの入力の場合は、チャンネルの選択などができます。
これらの画面は、使用する機器や入力ソースによって異なりますので、詳細は各機器の説明書を参照してください。

---

[36] テレビチューナー、すなわちアンテナ線からテレビ番組を利用する場合に選択します。
[37] S-Video 端子から映像を入力する場合に選択します。
[38] コンポジット端子（黄色のビデオ入力端子）から録画する場合に選択します。キャプチャカードによっては、コンポジット – S-Video 端子の変換コネクタを使って入力する場合があります。この場合にはコンポジットを選択してください。
[39] 動画のサイズは入力時のサイズであり、これを指定しても WMV に変換される時点で別のサイズに変換されます。

音声の調整

音声デバイスの選択

音声デバイスを選択します。
ビデオキャプチャ機器として「Microsoft DV Camera and VCR」(DV カメラ+iLink の組み合わせ) 選んだ場合は、「Microsoft DV Camera and VCR(Audio Output)」もしくは音声デバイスのいずれかを選択できます。前者はビデオカメラのマイクから入力された音声を使用します。後者はビデオカメラのマイクを利用せずに、パソコンに接続されたマイクを利用します。

音声入力ソースの選択

音声入力の種類を選択します。
「Microsoft DV Camera and VCR(Audio Output)」を選択している場合には、選択することはできません。パソコン内蔵の音声デバイスを使用する場合には通常[マイク]を選択しますが、音声入力の接続によっては[ライン入力]や[StereoMix]などを選択します。

音声の調整

[音声入力ソース]を選択したあとに、[音声オプション]を選択して設定ボタンをクリックします。
これ以降の設定は音声デバイスによって異なりますので、音声デバイスの説明書を参照してください。

アナログキャプチャカードを使用する場合、音声が出ない

アナログキャプチャカードを使用する場合、通常アナログキャプチャカード自身が音声を録音する機能を持っていません。そのため、アナログキャプチャカードから音声デバイスへライン接続をして、音声デバイスで録音する必要があります。
接続方法などは、アナログキャプチャカードの説明書などを参照してください。

Canopus MTV シリーズや VAIO など録画可能なパソコンを使用している場合

Canopus 社の MTV シリーズや VAIO などの録画機能付きのパソコンの多くは、ハードウェアで動画を圧縮する機能を持った「ハードウェアエンコーダ」を搭載しています。
StreamAuthor はハードウェアエンコーダ搭載のキャプチャ機器をサポートしておりませんので、使用することはできません。
また、キャプチャカードそのものを誤認識してしまい StreamAuthor が起動できない場合があります。これらのキャプチャデバイスは予めデバイスドライバで使用しないよう設定しておくことをお勧めします。

VfW(Video for Windows)ドライバの機器について

OS がキャプチャ機器を制御する規格として、VfW(Video for Windows)と WDM(Windows Driver Model)の2種類があります。StreamAuthor は WDM 規格のドライバにのみ対応していますので、必要に応じてドライバを入れ替える必要があります。ドライバは各機器のベンダーより提供されておりますので、そちらにお問い合わせください。なお、StreamAuthor は VfW しか対応していない周辺機器では使用できません。

各種設定

作業領域を変更するには？

作業領域は、インストール時に最も空き容量の大きいドライブに MyWorks フォルダとして指定されます。またインストールしたユーザ以外の場合は、各ユーザの最初の StreamAuthor の起動時に作業領域を作成するように求められます。（通常は、マイドキュメントフォルダ内の MyWorks フォルダ）
インストール後、ドライブの容量が足りなくなったなどで、作業領域フォルダを変更するには以下の手順で行います。

1. [ツール]→[環境設定]を選択し、[全般]タブを選択します。
2. [プロジェクトの開始時、または保存時のデフォルトのフォルダ]（作業領域フォルダ）を変更します。直接フォルダ名を入力することもできますが、[参照]ボタンをクリックしてフォルダを選択・指定したほうが間違いなく指定できます。

プロジェクトファイルの保存を高速化するには？

特にフルスクリーンモードで、プロジェクトファイルの保存時に動画ファイルをコピーするため、プロジェクトの保存に時間がかかる場合があります。そのため動画ファイルのコピーをせずに、必要最低限の情報だけ保存して時間を短縮することができます。

1. [ツール]→[環境設定]を選択し、[全般]タブを選択します。
2. [ソースファイルをプロジェクトフォルダにコピーする]チェックを外します。

※ この機能は連続して複数のプレゼンテーションを行う場合に、プロジェクトの保存の時間を短くして、プレゼンテーション間の待ち時間を短縮することに効果的です。

※ ソースファイルをコピーしない場合、プロジェクトフォルダを他の PC にコピーしてから作業を行う場合、必要とされる動画ファイルが見つからないため、そのファイルを指定するよう求められます。これを回避するには、全てのプレゼンテーションが終了したあと、作業を行ったパソコンで再度[ソースファイルをプロジェクトフォルダにコピーする]をチェックし、それぞれのプロジェクトを読み込んでから再度プロジェクトを保存します。

コンテンツの概要を自動的に指定するには？

コンテンツの概要で、いつも同じ内容を使うことが多い、著作者・E-mail・著作権の3項目はあらかじめ指定しておくことができます。

1. [ツール]→[環境設定]を選択し、[全般]タブを選択します。
2. [概要]の内容を入力します。

コンテンツが最後まで達した時の動作

1. [ツール]→[環境設定]→[コンテンツの設定]タグを選択します。
2. [最後まで再生が終わった時の動作]を選択します。

コンテンツの最初に戻る	コンテンツの最初に戻って停止します。LMS などに登録して使用する場合はこの動作を選択してください。
コンテンツの最後で停止する	コンテンツの最後で停止します。
繰り返し再生を行う	コンテンツを繰り返し再生します。

コンテンツが最後まで達したときに、特定の Web サイトに移動する

コンテンツの再生が最後に達したばあいに、特定の Web サイトに自動的に移動する場合には、[コンテンツの再生が終わったら以下のウェブサイトに移動する]に移動する URL を指定します。ここでは必ず「http://～」などから始まる完全な URL を指定してください。これ以外の書式を指定した場合は、正常に動作しない場合があります。(相対パスでの指定は正常に動作しません。)
デフォルト値は「http://」と記述されていますが、この場合はこの設定は使用されません。
この項目を設定した場合は、先のコンテンツ終了時の動作は無視されます。
LMS などでコンテンツを利用する場合はこの項目は設定しないでください。

コンテンツが最後まで達したときに、特定の HTML ファイルに移動する

例えば、CD-ROM などに複数のコンテンツを保存して、それぞれのコンテンツが終わったら目次に該当する HTML に自動的に移動するためには、[コンテンツの再生が終わったら以下のウェブサイトに移動する]に「/navi.html」のように入力します。ただし、これは CD-ROM のルート直下に、目次用の HTML ファイルとして navi.html が保存されている場合について説明しています。また、コンテンツの作成途中では正常に目次用 HTML に移動しません。
CD-ROM を作成したあと、必ず正常動作すること確認してください。

まだ見ていないスライドの視聴の禁止

コンテンツの内容によっては、コンテンツのまだ見ていない部分 (先の部分) に移動することを禁止する必要があります。
この場合は、[未読のスライドの表示･移動を禁止する]にチェックすることによって、再生がすんでない動画･スライドへの移動を禁止します。
すでに再生してしまった部分の動画やスライドには戻ることができます。
この制限は、ブラウザを一度閉じてしまうと既読の情報が消えてしまうので、再度コンテンツを開いた場合でも、最初からコンテンツを再生する必要があります。

タイムラインに関する設定を変更するには？

1. [ツール]→[環境設定]を選択し、[タイムライン]タブを選択します。
2. [時間間隔の設定]を修正します。

映像トラックに静止画を挿入した場合の表示時間

タイムラインモードで、映像トラックに静止画を挿入することができます[40]。静止画を映像トラックに配置したとき、その静止画を何秒間表示するかを指定します。
映像トラックに配置したあと、静止画の表示の開始位置･終了位置を調整することによって、

[40] あらかじめメディアライブラリに静止画を読み込んでおく必要があります。スライドライブラリに登録された静止画を映像トラックに配置することができません。

表示時間を変更することができます。

スライドを挿入した表示時間

タイムラインモードでスライドをドラッグアンドドロップで配置したときに、そのスライドを何秒間表示するかを指定します。
スライドトラックに配置したあと、スライド表示の開始位置・終了位置を調整することによって、表示時間を変更することができます。

PowerPoint のアニメーションの動作間隔

タイムラインモードで、アニメーション効果を持つ PowerPoint スライドをドラッグアンドドロップタイムラインに配置した場合に、そのアニメーション効果を何秒間隔で実行するかを指定します。
アニメーション効果開始のタイミングは、配置後変更することができます。

トランジション効果の継続時間

トランジション効果を指定したとき、そのトランジション効果を、開始から何秒間で終了するかを指定します。
値が n 秒のとき、トランジション効果の開始位置は、直前の映像の終了 n/2 秒、直後の映像の開始 n/2 秒にそれぞれ適用されます。

テンプレートのデフォルト表示時間

タイムラインモード開始時に、テンプレートだけはあらかじめ適用されています。このテンプレートの表示時間です。
作業を行ううちにこの時間を超えた場合には、自動的に時間が延長されます。

目次の自動設定を禁止するには？

コンテンツ上の目次は、スライドを配置した場合にスライドのタイトル・ファイル名から自動的に命名されます。この目次を自動的に作成したくない場合は、以下の手順で設定します。

1. [ツール]→[環境設定]を選択し、[タイムライン]タブを選択します。
2. [新しいスライドを追加したときに、自動的に目次マーカを挿入する]チェックを解除します。

トラブルシューティング・よくある質問とその答え

コンテンツ

出来上がったコンテンツのファイルサイズはどれくらいになりますか？

出来上がったコンテンツのファイルサイズを正確に言うことはできませんが、コンテンツ全体のファイルサイズ中では動画のファイルサイズが大半を占めます。したがって、動画のファイルサイズだけに関して言えば以下の計算式でおおよそのファイルサイズを求めることができます。

$$F(MB) = \frac{B(kbps)}{8} \times t(\min) \times 60 \div 1024$$

F：ファイルサイズ　B：ビットレート　t：収録時間

実際にはこれに HTML ファイルが加わるので、10%～20%ファイルサイズを加味する必要があります。

出来上がったコンテンツで、スライドが切り替わるときのクリック音を消すには？

この音は、Windows OS がリンクをクリックした時に鳴らす音なので、StreamAuthor 側の設定で消すことはできません。この音を消す場合には、各クライアント（再生側 PC）で以下の設定を行います。

「コントロールパネル」→「サウンド」で「ナビゲーション開始」の項目のサウンドを「なし」に設定してください。

Windows XP の場合は、「コントロールパネル」→「サウンドとオーディオデバイス」を開いて「サウンド」タグを選択します。ナビゲーションの「ナビゲーション開始」を選択してサウンドを「なし」にしてください。

この作業を行った場合には、Internet Explorer でリンクをクリックした場合の音も出なくなります。また、この作業を行ったクライアント（再生側）パソコンのみで有効で、オーサリング（作成側）PCで設定しても他のパソコンでは音は出ますので注意してください。

フルスクリーン

スライドを使わずに、ブランクスライドとペン機能だけで収録できますか？

可能です。起動時にスライドを選択せずに起動してください。スライドエリアは真っ黒ですが、そのまま収録作業に入ってください。ブランクスライドをクリックするたびに新規のスライドが記録されるので、ペン機能を使って書き込みを行ってください。

続けて収録をする場合にすばやく起動する方法

セミナーなどで、連続していくつかのプレゼンテーションを行う場合、各プレゼンテーションで

新規プロジェクトを作成していると PowerPoint ファイルの読み込みに時間がかかってしまいます。このような場合には、セミナーの開始前にあらかじめ PowerPoint ファイルなどを読み込んでプロジェクトを保存しておき、各プレゼンテーションの時に保存しておいたプロジェクトを開くようにします。ただし、プロジェクトを作成しておくときに本番と同じ環境（カメラやマイク）などの設定をしておく必要があります。また、プロジェクト保存後、PowerPoint に修正が加わった場合はその変更を反映することはできません。
各プレゼンテーション終了後に、直後にコンテンツを公開する必要が無いのであれば、そのときにはプロジェクトのみを保存します。すべてのセミナーの終了後、各プロジェクトを開いてコンテンツを保存･アップロードします。
以上の手順を行えば、本番中の時間は大幅に節約できます。

「カメラからの録画」を使用する際に、投影される映像を大きくしたい

「カメラからの録画」で表示される映像は、入力される映像よりも大きなものにすることはできません。特に USB カメラからの映像は、元々320x240 のサイズなので、それ以上大きくすることはできません。
DV カメラ+iLink を使用している場合には、以下の手順で動画のサイズを変更できます。

1. [デバイスの設定]をクリックします。（録画中は設定できません。録画を停止してから行ってください。）
2. 映像オプションを「DV Camcorder Capture Pin」を選択し、[設定]ボタンをクリックします。
3. 解像度を変更します。

画面録画

画面録画で、再生している動画を録画できますか？

画面録画機能そのものが DirectShow を利用しているため、DirectShow を経由して動画を再生するソフト(PowerDVD や Windows Media Player)で再生されている動画は録画できません。
また DirectShow を利用しない動画再生ソフトであっても、動画を再生するために PC のリソースを大幅に消費していることが多いので、コマ落ちする可能性が高くなります。
弊社としては、画面録画で、再生している動画を録画することはお勧めしません。

サポートなど

サポートについて

Web サポート

Web サポートでは、TIPS（便利な使い方）、FAQ（よくある質問とその答え）、修正プログラム・アップデータなどを公開しています。
Web サポートは、メンテナンス時を除いて、24時間365日後利用いただけます。

StreamAuthor 専用 Web サイト： http://sa.cli.co.jp/

なお、一部内容については、ご利用いただくために CD-Key の入力が必要となる場合があります。

メールでのサポート

現在サイバーリンクでは、メールでのご質問は受け付けておりません。
製品に関するご質問は、インターネットの Web フォームから入力していただけますので、そちらをご覧ください。
なお、入力はメンテナンス時を除いて24時間365日受け付けておりますが、回答を差し上げるのは弊社営業日・営業時間内となりますのでご注意ください。
なお、パートナー（販売代理店）とサポート契約を結ばれている場合は、そちらにお問い合わせください。

電話・FAX でのサポート

サイバーリンクではカスタマーサポートセンターで電話・FAX によるお問合せを承っております。 番号および受付時間は下記のとおりです。

電話番号	03-5339-6996
受付時間	休日および年末年始休業期間を除く、月曜日から金曜日 午前 10 時から午後 1 時／午後 2 時から午後 5 時
FAX 番号	03-3662-8009 FAX でのご質問は 24 時間承っておりますが、ご回答は上記サポートセンターの開設時間にさせていただきます。

多言語サポートについて

StreamAuthor3 は、日本語以外の言語でインストールしていただくことも可能ですが、日本語以外でお使いの場合は、サポートの対象外とさせていただきます。サポート対象は、日本語 OS と日本語の StreamAuthor の組み合わせのみとさせていただきますので、ご了承ください。
また、サポートは日本国内からのみとさせていただきます。
日本語以外のマニュアル（ユーザーズガイド）は提供いたしておりません。

コンテンツのカスタマイズについて

StreamAuthor 3 について

StreamAuthor 3 で作成されたコンテンツは、お客様の責任においてカスタマイズすることを認めます。カスタマイズした結果コンテンツの動作が不正常になった場合は、サイバーリンク社はその責を負いかねます。また、カスタマイズに関するご質問にはお答えいたしかねますのでご了承ください。

StreamAuthor 3 評価版･体験版 について

StreamAuthor 3 評価版･体験版で作成されたコンテンツは、(index.asx ファイルの変更を除いて)一切の変更･修正を認めておりません。これはコンテンツ中に含まれる CSS･JavaScript･HTML ファイルなどの修正、画像の修正･置き換えなど全てを含みます。

アプリケーションの改竄について

StreamAuthor 3 / StreamAuthor 3 評価版･体験版のいずれでも、アプリケーションの解析･逆アセンブリなどの行為は禁止します。

アップデータの提供について

新機能の追加や、プログラムの不具合の修正などでアップデータプログラムを提供します。アップデータは修正パッチなどと呼ばれることもあります。
アップデータは、StreamAuthor 3 がインストールされた環境にのみインストールすることができます。
アップデータは、Web サイト上で公開されます。アップデータを郵送･メールの添付などで送付はいたしておりません。